NUEVA

ヌエバでチャンピオンを目指せ!!



国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球



日本ハンドボール協会検定球



本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

molten®

株式会社モルテン

東京本社　〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7
大阪・名古屋・福岡・広島・四国・仙台・札幌・リノU.S.A.・デュッセルドルフG

巻頭言

活かそう
小学校教材ハンドボールを我々の手で



教職員連盟理事長　山下勝司

「もし、小学生の時代からハンドボールを始めていたら…もっと素晴らしいプレーができただろう」。

往年のハンドボール愛好者なら、誰もが一度は思ったことではなかろうか。

2002年の学習指導要領改訂に伴いハンドボールが小学校体育教材に加わることは願ってもないうれしい話である。私は以前からそうあるべきだと思っていたことで、走ってよし、跳んでよし、投げて楽しめるこのスポーツが、発育・成長著しい年代になぜ取り入れられないのだろうと、不思議でならなかった。なにはともあれ関係各位の永年のご努力によって小学校で公認された体育教材としてのハンドボールが実現したことにたいし心から喜び、重ねて関係各位に敬意を表するしだいである。

ハンドボール先進国は、どの国を見ても小学校からの経験が豊富で、その技術一つひとつが子供の技とは思えない素晴らしいものと聞いている。

従来、わが国では中学生で習得していた基本技能のすべてが小学生で完了していたと仮定したとき、わが国のハンドボールも、きっと現在の姿と変わっていたに違いない。

日本のハンドボール界は長年にわたり「指導・普及」に重点をおき、中でも「底辺拡大・頂点の強化」を声を大にしてきた。世界選手権大会ベストテン入り、オリンピック出場等々。しかし、その目標達成までには今一歩届かず、多くのハンドボール理解者やファンの期待に応えてこれなかった。いったいどこにその原因があるのであろう。

ナショナルメンバーは全国から選ばれた、学生を含む日本の超一流プレーヤーである。そのチームを指導するスタッフも揃っている。運営・活動するための財源も各事業所に協力してもらっている。生徒・学生・一般からも支援されている。目標達成のための背景はかなり整備され、充分満足とはいかないかもしれないが選ばれた選手たちに対してはプレーに専念できる環境はできている。

しかし、そうした環境でプレーしている選手が大事な試合をひかえて、怪我や事故で出場しない事実があればひとえに本人の自覚の問題である。

自分は国民から選ばれたナショナルチームの一員であるという自覚ー実際には大学・企業に所属してそこに生活の基盤があることを承知したうえでーが必要である。あえて難問と知りながら、もう一言いわせてもらうならば、せめて予選会を突破して世界の壁に挑戦する覚悟と責任をまっとうして欲しい。

世界を目指すトッププレーヤーの育成にあたって、この度、小学校教材にハンドボールが加わったことは、金の卵の発掘につながり、その指導育成は重要な課題である。

わが連盟は、近年、教員の高齢化・新規採用の減少・少子化による愛好者の減少などの影響の波を受けて、主催する大会の参加チーム数も減少し、活動状況も停滞気味であるのが現実である。しかし、連盟として「何かしなければ」と考えた時、全国の指導者と肩を組んで、これまでの努力に倍して普及・育成に取り組むことだと思っている。そのために、従来の大会にあったような勝敗にのみとらわれることなく、指導者による研究活動の発表会も再開させなければならないであろう。新しく加わる小学生の育成指導に関するものから大学生の指導に至る分野まで、わが連盟だからこそできる努力をする場に益々高揚させ、小・中・高校を一貫した指導強化ができる体制を確立したい。

先達者曰く、

日本のハンドボールの発展は学校体育を起点として始まっている。

指導者の一人ひとりが真剣に考えて、一丸となって取り組めば、目標達成はできると確信している。

日本ハンドボールリーグ25周年記念

第6回ヒロシマ国際ハンドボール大会

（2000ジャパンカップ）

【大会要項】

1. 目　　的　1994年に広島市において開催された第12回アジア競技大会を記念して始まった大会で、第６回大会は日本ハンドボールリーグ25周年を記念し、「2000ジャパンカップ」を兼ね世界各国より男・女各４チームを招聘する。
　国際平和文化都市を標榜する広島において国際試合を行うことにより、ハンドボールを通じて参加国との友好を深める。

2.主　　催　(財)日本ハンドボール協会・日本ハンドボールリーグ機構・中国新聞社

3.主　　管　広島県ハンドボール協会・広島市ハンドボール協会・甲田町ハンドボール協会

4. 後　　援（予定）　広島県・広島市・甲田町・広島県教育委員会・広島市教育委員会・甲田町教育委員会・(財)日本体育協会・(財)日本オリンピック委員会・(財)広島県体育協会・(財)広島市体育協会・甲田町体育協会・(財)広島市スポーツ事業団・(財)広島平和文化センター・ＮＨＫ広島放送局・中国放送・広島テレビ放送・広島ホームテレビ・テレビ新広島・広島エフエム放送

5. 協　　賛　広告協賛各社

6. 大会期間　平成12年７月27日(木)～７月30日(日)

7. 競技会場　広島市東区スポーツセンター・湧永満之記念体育館

8. 参加チーム（予定）　男子４チーム、女子４チーム

（男　子）
・全日本ナショナルチーム
・アイスランドナショナルチーム
・エストニアナショナルチーム
・日本リーグ選抜

（女　子）
・全日本ナショナルチーム
・台湾
・韓国体育大学
・日本リーグ選抜

（高校招待試合）
・ジュニア男子　　広島県選抜チーム対他県チーム（選考中）
・ジュニア女子　　広島県選抜チーム対他県チーム（選考中）

9. 競技規則　2000年国際ハンドボール連盟競技規則

10. 試合方法　１回戦総当たりリーグ方式

11. 費用負担
・各チームは自国と日本までの往復の航空運賃、空港利用税ならびに、査証取得に関わる費用を負担する。
・開催者は22名まで、７月26日～31日までの滞在費（宿泊費、食事、試合とトレーニングに関わる国際移動費）を負担する。電話、ファックス、クリーニング等の個人的費用は除く。
・追加人員の滞在費は１人、１日当たり12,000円とする。

12. 審　　判　韓国・台湾・日本より５ペア

13. 選手宿泊　三井ガーデンホテル広島他

14. 試合日程　（予　定）

	スケジュール	広島会場	甲田会場
7/26(水)	広島着		
7/27(木)	代表者会議 審判会議 記者発表 県知事・市長表敬訪問		
7/28(金)	試　合	15:00～高校招待試合(女子) 広島県選抜vs他県チーム 17:00～(女)韓　体　大vsリーグ選抜 18:40～(男)アイスランドvsリーグ選抜	17:00～(女)全　日　本vs台　　湾 18:40～(男)全　日　本vsエストニア
7/29(土)	試　合	10:30～高校招待試合(男子) 広島県選抜vs他県チーム 13:30～(女)韓　体　大vs台　　湾 15:10～(男)アイスランドvsエストニア 17:00～(女)全　日　本vsリーグ選抜 18:40～(男)全　日　本vsリーグ選抜	
7/30(日)	試　合	12:00～(女)台　　湾vsリーグ選抜 13:40～(男)エストニアvsリーグ選抜 15:20～(女)全　日　本vs韓　体　大 17:00～(男)全　日　本vsアイスランド 20:00～表彰式・サヨナラパーティー	
7/31(月)	広島発		

平成12年度　全日本男子候補選手

	氏名	ふりがな	所属先名	生年月日	身長	体重	出身大学	出身高校	出身地
GK	坪根敏宏	つぼね　としひろ	湧永製薬	1973.6.4	187	92	福岡大	久留米	福岡県
〃	荻田　圭	おぎた　けい	大同特殊鋼	1975.9.4	190	86	日体大	湯沢高	秋田県
CP	加藤圭介	かとう　けいすけ	本田技研	1974.12.24	176	80	——	北陽高	大阪府
〃	広政宜孝	ひろまさ　よしたか	〃	1973.7.6	177	77	筑波大	下松工	山口県
〃	佐々木教裕	ささき　のりひろ	〃	1974.4.8	192	99	日体大	拓大第一	東京都
〃	池辺健二	いけべ　けんじ	〃	1974.9.19	192	97	大体大	久留米工附	福岡県
〃	斎藤泰貴	さいとう　やすたか	〃	1974.12.11	186	85	中京大	清水市商	静岡県
〃	阿部展行	あべ　のぶゆき	〃	1975.8.30	180	74	法政大	横浜商工	神奈川県
〃	冨本栄次	とみもと　えいじ	大同特殊鋼	1971.10.18	182	88	日体大	日体荏原	神奈川県
〃	松林克明	まつばやし　かつあき	〃	1977.10.23	181	73	日体大	桃山学院	大阪府
〃	中山　剛	なかやま　つよし	湧永製薬	1969.7.4	191	93	福岡大	久留米工附	福岡県
〃	山口　修	やまぐち　おさむ	〃	1972.2.28	191	98	大体大	西宮南高	兵庫県
〃	下川真良	しもかわ　まさよし	〃	1976.6.23	171	65	大体大	北陽高	京都府
〃	辻　昇一	つじ　しょういち	OSAKI OSOL	1973.5.10	183	75	日体大	学法石川	福島県
〃	中川善雄	なかがわ　よしお	三陽商会	1974.8.9	180	83	中央大	九州学院	熊本県
〃	田中　将	たなか　まさし	〃	1976.1.17	172	73	日体大	伊奈高	茨城県
〃	永島英明	ながしま　ひであき	〃	1977.3.24	188	85	大体大	此花学院	大阪府
〃	木村祐介	きむら　ゆうすけ	〃	1976.12.12	188	84	日本大	日大明誠	東京都
〃	角谷裕司	かくたに　ゆうじ	トヨタ車体	1973.11.5	175	73	天理大	都島工高	大阪府
〃	野村広明	のむら　ひろあき	〃	1975.2.13	177	80	国士館	大分電波	大分県
〃	前田誠一	まえだ　せいいち	日体大	1979.5.3	183	75	——	浦和学院	北海道
〃	窪小谷貴浩	くぼこや　たかひろ	〃	1978.8.7	197	95	——	学法石川	福島県
〃	宮崎大輔	みやざき　だいすけ	〃	1981.6.6	174	70	——	大分国際	大分県

平成12年度　全日本女子候補選手

	氏名	ふりがな	所属先名	生年月日	身長	体重	出身大学	出身高校	出身地
GK	山口文子	やまぐち　あやこ	オムロン	1975.10.22	173	67	——	境高校	鳥取県
〃	山下美智子	やました　みちこ	Skovbakken	1976.1.5	177	70	——	宣真高	熊本県
CP	田中美音子	たなか　みねこ	〃	1975.1.14	160	55	——	四天王寺	大阪府
〃	青戸あかね	あおと　あかね	イズミ	1974.7.11	164	62	東女体	山陽女高	広島県
〃	橋詰とね	はしづめ　とね	〃	1976.3.21	167	64	武庫川	宣真高	大阪府
〃	小松真理子	こまつ　まりこ	北國銀行	1974.11.30	155	55	——	小松商高	石川県
〃	中村友美	なかむら　ともみ	〃	1977.6.23	168	60	——	福井商高	福井県
〃	倉知光子	くらち　みつこ	日立栃木	1975.11.12	167	58	東女体	宣真高	大阪府
〃	浦田芳江	うらた　よしえ	〃	1976.8.18	162	68	——	洛北高	京都府
〃	鶴野亜矢子	ひばりの　あやこ	〃	1976.8.29	162	53	福岡大	本庄高	宮崎県
〃	松永恵美子	まつなが　えみこ	〃	1977.1.22	164	59	——	小松商高	福井県
〃	飛田季実子	ひだ　きみこ	〃	1977.9.26	168	64	——	福島女高	大阪府
〃	大石真代	おおいし　まさよ	オムロン	1976.12.7	170	67	武庫川	暁高校	三重県
〃	佐久川ひとみ	さくがわ　ひとみ	〃	1977.7.21	170	61	——	浦添高	沖縄県
〃	山下麗子	やました　れいこ	〃	1977.10.5	170	67	——	大谷高	大阪府
〃	坂元智子	さかもと　ともこ	〃	1978.9.12	171	65	——	夙川学院	兵庫県
〃	中塚充子	なかつか　みつこ	立山アルミ	1979.1.4	172	62	——	四天王寺	大阪府
〃	穂積知紘	ほづみ　ちひろ	ソニー国分	1978.1.11	170	61	——	夙川学院	兵庫県
〃	菅谷美奈	すがや　みな	ブラザー工業	1979.4.22	175	70	——	養老女商	岐阜県

第41回高松杯

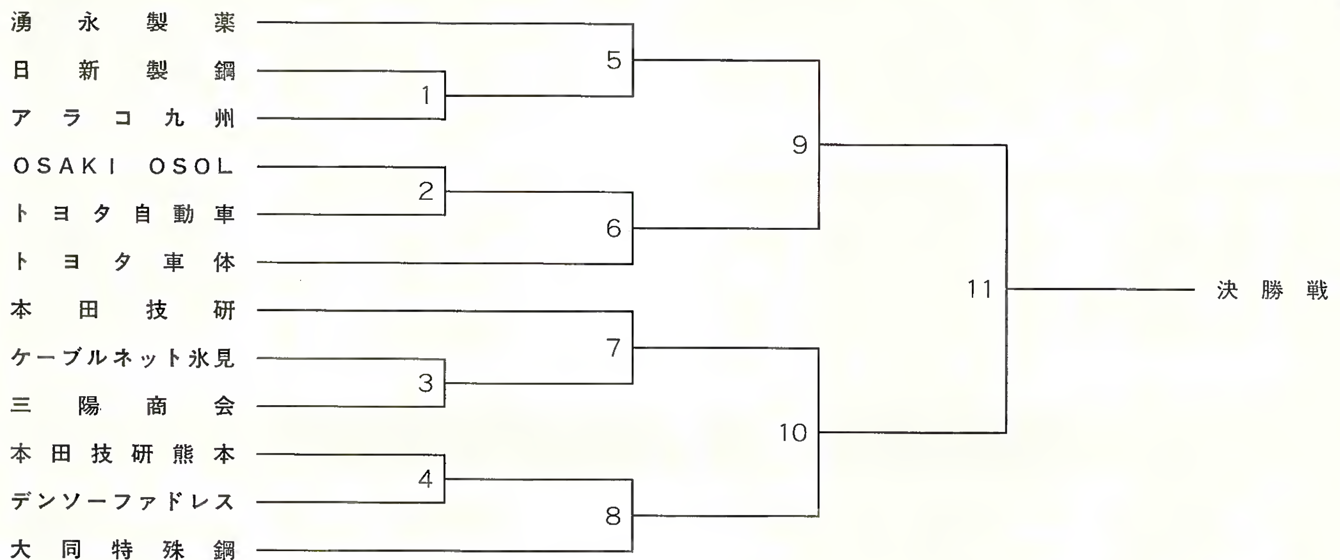
全日本実業団ハンドボール選手権大会 組み合わせ決定

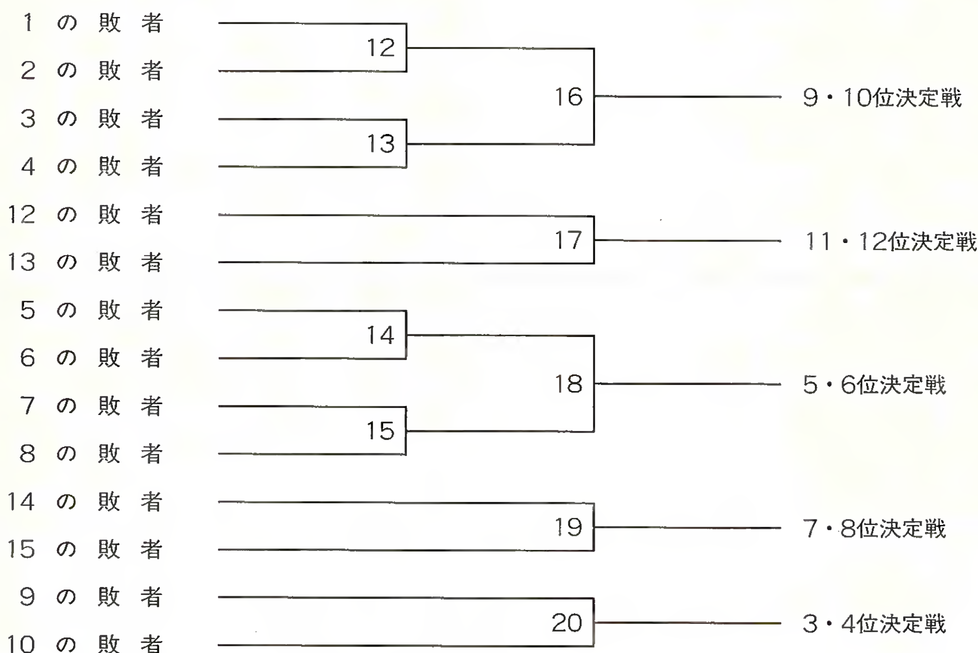
毎年恒例の実業団選手権大会は5月のゴールデンウィーク前後に行っていましたが、今年は実業団加盟選手の身体ケア、休暇などを考慮して3月末から6月までオフシーズンを設け、6月29日から7月2日まで愛知県名古屋市の中村スポーツセンターと北スポーツセンターで行われます。

出場チームは男子12チームで前年この大会で上位10チームとチャレンジ2000大会上位2チームが参加します。女子については前年度3月末で休部廃部のチームがあり、少し寂しいですが、11チームが参加します。

男子の部

男子は前年度4位までがシードされ、優勝争いは日本リーグ上位の争いになり、リーグチャンピオンの本田技研を中心に総合優勝の大同特殊鋼、それに前年度この大会優勝の湧永製薬の争いになりそうです。ただし、この大会はシーズン初めでもあり各チームとも新人を起用して力を試してくると思われます。新外国人は現在登録中の本田技研熊本・譚崇聖（台湾）、湧永製薬・ダグルシグイルドソン（アイスランド）の2名が登録しています。チャレンジから挑戦するトヨタ自動車とケーブルネット氷見がどこまで上位へ食い込めるかが楽しみです。





女子の部

女子は大崎電気、大和銀行、ジャスコが休廃部のため、11チームとちょっと寂しい大会ではありますが、選手は大量に移籍しており、各チームとも層が厚くなっています。優勝争いとなるのは、前年優勝のイズミを中心にレギュラーメンバーが引退し有力新人加入の北国銀行、今年の国体優勝を目指す立山アルミ、巻き返しを図るオムロン、大量移籍の日立栃木の争いとみられます。しかし、各チームとも大勢の引退選手と多くの新人が加わる可能性があり順位を予想するのはたいへん難しい状況で大会としてはおもしろい展開になりそうで、大勢の方が会場に来られるのをお待ち申し上げております。

- 決勝戦
  - コ
    - ク
      - エ
        - イズミ
        - ア
          - ムネカタ
          - ブラザー工業
      - オ
        - 日立栃木
        - オムロン
    - ケ
      - カ
        - 立山アルミ
        - イ
          - 香川銀行
          - シャトレーゼ
      - キ
        - ウ
          - ソニー国分
          - 自衛隊体育学校
        - 北国銀行

- 9・10位決定戦
  - セ
    - サ
      - イの敗者
      - ウの敗者
    - アの敗者
- 5・6位決定戦
  - ソ
    - シ
      - エの敗者
      - オの敗者
    - ス
      - カの敗者
      - キの敗者
- 7・8位決定戦
  - タ
    - シの敗者
    - スの敗者
- 3・4位決定戦
  - チ
    - クの敗者
    - ケの敗者

連載3

NTS（ナショナルトレーニングシステム）コーチングビデオおよびテキストの制作について

NTS運営副委員長　東　根　明　人

平成12年5月26日～28日、愛知県大同特殊鋼体育館にて標記事業を行いました。以下に、これまでの経過とその概要等をご報告します。

今回の企画は、平成12年4月9日に開催しましたNTSゼネラルミーティングの際に決定しました表1にある項目と担当者からの原案に基づき内容を整理統合し実施しました。

表1　作成プログラムと担当者

項目	担当者
1.ウォーミングアップ	蒲生、関、東根
2.コーディネーショントレーニング	角、東根
3.ボディーコントロールトレーニング	佐藤、末岡、田中
4.パスコントロールトレーニング	山村、高村、佐々木
5.ゴールキーパートレーニング	栗山、奥田
6.シューティングトレーニング	松井、藤本、浜川
7.Man-Manトレーニング	荷川取、金、大房
8.グループ戦術トレーニング	首藤、酒巻、西窪

各担当者は5月10日までに、合計100ページにもわたるプログラムを考えてくれました。ただちに、緒方強化委員長、松井男子委員長、西窪女子委員長、田口男子監督、伊藤女子監督に郵送し、2週間かけて細部の検討を頂きました。

以上のように多くの関係者の熱意による原案を、5月26日に蒲生、東根が翌日の運営委員会にて決定する素案づくりを実施。27日は、運営委員、コーディネーター、インストラクターによる最終討議にうつりました。この会議は深夜までおよび、様々な意見が取り交わされました。最終的には表2のような内容と指導者が決まり、明日を待つのみ。

28日は、愛知県下の高校・中学・小学生にモデルをお願いし、積極的なご協力をいただき心より御礼申し上げます。みなさんの真剣な取り組みによって、予定通りに進みました。あわせて、指導者および保護者の皆様にも厚く感謝の意を表します。

また、前日より市原専務理事をはじめ、NTS関係者も総勢30名が参加しました。少しでもいい内容にしようと、前日の討議に引き続き、ビデオ撮影時にもいろいろと建設的な意見が出されました。

テキスト―ビデオ―講習会が、それぞれ補い合いながらNTSのねらいである「見つけ・育て・生かす」の根幹をなしていきます。今回は、ハンドボールプレーヤーとして共通に持っておきたい基本を特に強調しました。ただし、ファストブレイクやフィールドテストは、時間の関係上組み込むことができませんでした。これらにつきましては、テキストで補充したいと思っています。

今回撮影した映像は、約1ケ月かけ仮編集をし、その後解説等を入れブロックトレーニング時に公開を予定しています。テキストの方も、同様のペースで編集を進行します。あくまでも初回であり、今後各方面からのご意見などの評価をいただき、議論を重ね修正し、よりよいプログラムを作っていきたいと考えております。

NTSは、指導者のみなさんが「世界に通じるプレーヤー」の育成を共通理解し、考えを膨らませる架け橋になる使命も担っています。情報を公開し、共有し発展させるときにきています。これまで蓄積された情報や、新たな情報などを持ち寄り、NTSの定着にご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2000年指導ポイント

「基本技術の向上とコーディネーション能力アップ」です。

世界で戦うには、基本的な技術・戦術の完成度に裏打ちされた固有技術の有無が重要です。実践で、瞬時に戦況を把握し、速く強く正確にそして効果的にプレーできるかが基本の「質」にかかわってきます。このような基本の習得は、ゴールデンエイジ（9才～12才頃）が最適といわれています。そしてポスト・ゴールデンエイジ（13才頃以降）では、それまで身につけた技術をより速く、強く発揮できるようになります。

以上のような理由により、早い時期に基本動作を完成させる必要があるのです。しかも、全国各地で共通の基本を習得しますので、「質」の高いプレーヤーが育ちます。もちろん次にテーマとなる固有技術つまり独自性もあわせて育成する必要があります。

どの世代も共有している基本。これまでは残念ながらなかったのではないでしょうか。

さらにこういった基本をより発展させる基盤として、コーディネーショントレーニングがあります。パワーはあるが技術がどうも、というプレーヤーを見かけます。それはたいていの場合、各筋肉群を互いに効率よく調整（コーディネート）できていないのです。各筋肉群の効果的な協調活

動ということに、コーディネーショントレーニングということばの由来があります。

表2　ビデオ作成スケジュール

時間	項目	内容	担当
9：00	ウォーミングアップ2	アクティブタッチ	佐藤
9：15	コーディネーション3	4：4タッチハンド	佐藤
9：30	ボディコントロール1	フットワーク（フロント、サイド、スリークロス）	佐藤
9：45	ボディコントロール2	ディフェンスフォーム（アタック・シュートブロック）	佐藤
10：00	パスコントロール2	パラレル・クロス	佐藤
10：15	パスコントロール3	3：3パスゲーム	佐藤
10：30	パスコントロール4	ゲームシチュエーションパス	佐藤
10：45	シュートコントロール2	ドリブルシュート	松井
11：00	シュートコントロール3	ノーマークシュート	松井
11：15	シュートコントロール4	スリーポジションシュート	松井
11：30	Man-Man 1	1：1パスゲーム	藤本
11：45	Man-Man 2	フェイントトレーニング（ステップ・シュート）	藤本
12：00	Man-Man 3	フェイント（スイング・ローリング・ジャンプ）	藤本
12：00	Man-Man 4	1：1ゲーム	藤本
		昼　食	
13：00	ウォーミングアップ2	ドリブルウォーミングアップ	東根
13：15	コーディネーション1	ワンマンドリル	東根
13：30	コーディネーション2	ツーメンドリル	東根
13：45	パスコントロール1	スローイング・キャッチングの基本フォーム	東根
14：00	シュートコントロール1	ステップ・ジャンプ・ランニングシュート	松井
14：15	グループ戦術1	オフェンス2：2（パラレル・クロス・スクリーン）	首藤
14：45	グループ戦術2	オフェンス3：3（パラレル・クロス・スクリーン）	首藤
		休　憩	
15：30	グループ戦術3	ディフェンス（2：2の基本）	佐藤
16：00	ゴールキーパー1	基本フォーム、コーディネーション	栗山
16：30	ゴールキーパー2	ポジショニング、セーブトレーニング	栗山
17：00	ゴールキーパー3	パスアウトトレーニング	栗山

一方で、「センスがある」「バランスがいい」「ボールハンドリングが上手」「ヨミがいいねえ」といった声をよく聞きます。これらの「動き」は、神経一筋が効果的に協調活動をしており、コーディネーション能力が高いプレーヤーなのです。

つまりコーディネーショントレーニングとは、身体の神経一筋の運動性を高め、身体をコントロールする能力を向上させようとするトレーニングです。「動き」をつくり出すさまざまな要素を組み合わせて、新たな機能を創造する側面を持っています。特に神経系が著しく発達するプレ・ゴールデンエイジ（5才～8才頃）では、多面的・多様性のある運動が重要であり、将来の競技力開花に直結しているといえます。

このトレーニングにより、「動き」の学習や修正が容易になります。また、技術・戦術と深く関わりがあるため、将来の「伸び」に欠かせないトレーニングです。

表3にコーディネーション能力を構成する要素を示しました。

表3　コーディネーション能力の構成要素

定位能力	絶え間なく動いている味方、相手、ボールならびにゴールとの関係で、自分の身体の位置を時間的・空間的に正確に決める能力（情報処理）
変換能力	プレーの最中に（例えば相手をかわしているとき）突然知覚した、あるいは予測された状況の変化に対して、運動を切り換える能力（予測、先取り）
識別能力	タイミングを合わせ、ほどよい力加減で緻密な行為をするために、身体各部を正確に、無駄なく互いに同調させる能力（巧緻性、ボール感覚）
反応能力	予期された信号、あるいは予測されなかった信号（例えばそれたボール）に対して合目的的なプレーを素早く開始する能力
連結能力	ボールを操作する個々の技術・戦術的行為を空間的・時間的かつダイナミックにつなぎ合わせる能力（コンビネーション能力）
リズム能力	自身の運動リズムをみつけたり、真似したり、さらには決定的なタイミングをつかむ能力
バランス能力	空間や移動中における身体バランスを維持したり、崩れをすばやく回復させる能力

コーディネーション能力は、決して「それ自体」では存在せず、必ず「何かに対応して」存在します。例えば、フェイント動作の際にバランスを保持する、あるいはディフェンスの妨害に対して素早くバランスを回復するには、ハンドボールの専門能力や筋力が必要です。コーディネーション能力の中でも複数が組み合わさり、様々なプレーを作り上げています。例えば、GKのキーピングでは定位能力と反応能力が、そしてパスについては定位能力と識別能力がよりはっきりと現れます。

日本でもこれまでやられていたのですが、バランスならバランス、ボール感覚はボール感覚といったように、個別に取り出して実施していたように思われます。そこで今回、体系化した理論とプログラムを共有化しようと考えました。

以上の指導ポイントを踏まえ、NTSを展開します。発育発達に合った最適なトレーニングを行い、将来世界で活躍する人材をハンドボール界全体で育成していきましょう。

新連載　OB登場!!

この「OB登場!!」は、今ある日本ハンドボール界の発展を選手、あるいは名裏方として支えてくださった球界OBの方にスポットを当て、当時の懐かしい思い出や今の日本球界に対する温かく且つ厳しいご意見を語っていただこうというものです。現在は一線を退かれたものの、今も記録や記憶に残る名ハンドボーラー。一体どのような方々が登場してくれるのでしょうか。今回はその記念すべき第1回。この人にご登場いただきます。



浅野　克彦（あさの かつひこ）さん

昭和8年8月21日生まれ

愛知県名古屋市出身。

11人制時代、名門桜台高校、日本体育大学そして桜丘会で幾度も全国の頂点を極めた名プレイヤー。裏方としても愛知県協会理事長として愛知国体の成功に尽力した。現在も名古屋市に住まわれ、趣味はハンドボールの記録収集。

――― ハンドボールとの出会いについて教えて下さい ―――

私がハンドボール（当時は送球と呼ばれていた）を知ったのは昭和21年の冬、県立熱田中学（現・県立瑞陵高）1年の時。当時私は創部間もないハンドボール部の練習を横目で見ながら甲子園を夢見て白球を追う野球少年でした。転機は昭和23年、学制改革により桜台高校併設中学に転校、背の低かった私は野球に見切りをつけ思いきってハンドボールに転向、それがスタートでした。中京商（現・中京大中京高）、田村紡、全日本女子等のコーチをされた宇津野年一先生、全国制覇18回（インターハイ9回・国体9回）という輝かしい業績を残された名監督稲石三二先生（現・名古屋文理大監督）、このお二人の指導者と苦楽を共にした素晴らしい仲間達と全国の頂点に立ったのは昭和26年でした。この年、東日本高校選手権・全日本高校選手権・国体・東西対抗とタイトルを独占、全国に桜台高の名を轟かせたのです。その後は日体大に進学、故・荒川清美先生の指導のもと一年からレギュラーとなり、関東学生リーグ・学生王座決定戦・全日本選手権等において優勝メンバーの一員に名を連ねるという幸運な選手生活を送ることが出来、また大学卒業の昭和31年、戦後初の国際試合となった当時の世界最強軍団西ドイツとの一戦において、全日本の一員に選ばれコートに立てたことはハンドボール人生で最大の喜びでありました。卒業後も桜丘会（桜台高OB）に所属し、国体で二度の優勝を経験。このように数々の檜舞台で活躍ができ、充実した選手生活が送れたのも、素晴らしい指導者・仲間に恵まれたからです。

――― 当時の日本ハンドボール界はどのような状況だったのですか ―――

ようやく日本協会の基盤が確立し、全国都道府県に協会設立をと普及に全力を傾注していた時期だったと思います。全日本選手権（昭和25年1月)、全日本高校選手権（昭和25年8月）が相次いで産声を上げたのもこの頃でした。当時はまだ食糧難の時代で、全国大会に遠征の際には米を持参せねばならない状況でした。ハンドボール界は学生陣がリードし、高校界では桜台高の天下が続いた時代でした。

――― 現役引退後も裏方としてご活躍されました ―――

当時の愛知県協会理事長伊藤和夫先生（元・日本協会常務理事）のご指導のもと、全国高校選抜の企画・運営に参

画、大会運営の難しさを味わうなど貴重な経験をしました。平成３年、伊藤先生の後を継ぎ県協会理事長に就任、平成６年「わかしゃち国体」に向け関係者の献身的な協力のもと必死の強化、その結果５種別中４種別を制する予想以上の成果を収めて総合優勝。責任を果たし終えたときは身も心もボロボロの状態でした。この年を最後に県協会を退き、現在は試合観戦の傍ら各種大会の記録を収集、何かのお役に立てればと思い遅々として進行しないものの記録の整理に余生を過ごしています。

――― 選手時代の忘れられない思い出をいくつか教えて下さい ―――

高校時代、一年生の終わりの春休み合宿に左鎖骨骨折で三角巾で吊ったまま参加、初恋の人に励まされ頑張ったこと。学校を休んでも練習は参加。合宿は当番制で自炊。味噌汁とカレーばかりの一週間。

大学時代、四年生の夏。明石での合宿で暑さに耐えかねグランド散水用の水道で隠れて暴飲。翌朝、ほとんどの部員が集団下痢、体力の消耗激しく直後の全日本選手権では準決勝であえなく敗退。主将として責任を痛感した苦い思い出。昭和30年11月、王座決定戦（対・関学）の開会式の選手宣誓で不覚にも日時をど忘れ。先輩諸氏に「試合前にあがってどうする」と大目玉。大恥をかいたが試合ではきっちりと結果を出し王座をはじめて獲得。

桜丘会時代、フェイント技術では誰にも負けない自信があった私は、初の国際試合で西ドイツの大男達を相手にも通用。溜飲を下げたもののこの年が私の絶頂期だった…。昭和33年富山国体一般男子準決勝・桜丘会－大阪クの雨中泥田の熱戦は一番印象に残るゲーム（詳細は日本ハンドボール史・私の思い出の１試合、P．446をご覧いただければ幸甚です）。翌日の決勝（対芝浦ク）で優勝を逃した無念の一投、タイムアップ寸前に得た13ｍスローで私の一投が相手ＧＫに阻まれ、延長の末敗退。悔し涙にくれたあの一コマは脳裏から消え去らない。昭和35年熊本国体、愛知県は大会史上初の４種別完全制覇を達成。そのときの喜びは選手冥利に尽きるものでした。

――― 今の日本ハンドボール界にあえて厳しいご意見をお願いしたいのですが ―――

シドニー五輪の出場権を逃したことは誠に残念で淋しい限りです。熊本の世界選手権、強豪フランスの心胆を寒からしめた闘魂あふれるあの全日本の勇姿はどこへ消えてしまったのでしょうか。外国人選手に頼る日本リーグの上位チーム、日本選手が脇役に甘んじているようでは、また「オレがエースだ」という選手が出現しないようではアテネへの道は遠いのでは。白元喆選手（大同特殊鋼）、決して体格的に恵まれているとは言えないのに、あの強靱な足腰と的確な判断力でゴールを狙う執着心は驚嘆に値するものでしょう。彼のような素晴らしい選手を是非国内から発掘し、育てて欲しいと願っています。「アジアを制せずしてオリンピックや世界選手権は語れない」。現状を打破しない限り、ハンドボールは益々マイナー化してしまうことを危惧しております。オリンピック予選の敗因を究明し、次なる目標に向かっての強化策の検討がすでに進められていると思いますが、英知を絞って強い日本の復活に関係者の一層のご協力を祈願致します。

浅野さん、どうもありがとうございました。これを読まれている方の中にはきっと懐かしく当時を思い出されている方もいることと思います。さて、この「ＯＢ登場‼」では、次回の原稿をお願いする方をご紹介いただくことになっています。次号では、浅野さんにご紹介いただいたＯＢの方が登場します。乞うご期待‼



昭和26年８月15日　東京都世田谷区駒沢グランドにて
第２回全日本高等学校ハンドボール選手権大会優勝記念
後列右より加藤照王（F.B）、奥村方志（F.W）、福岡敏之介（F.W）
青木茂（H.B）、稲石監督、宇津野先生

平成11年度
コーチ・レフェリーシンポジウム報告③

最終日

他競技の一貫指導の例（サッカー）

筑波大学教授　松本光弘

現在のサッカー協会における指導者育成・普及・強化について、筑波大学の松本光弘先生から、豊富な資料に基づいた情熱溢れる講演があった。

日本サッカー協会の技術委員会は、次の3つを柱として強化している。

(1) 世界大会をスタンダードとした強化策の推進。

(2) 代表チーム・ユース育成・指導者養成　三位一体の強化策。

(3) 各部門の強力なリーダーシップによる組織の充実

(1) に関しては、ワールド・カップはその国のサッカーのレベルを表すバロメーターであるので、世界の中で勝つためには日本全体のレベルアップが必要である。そのためには課題の共有・育成ビジョンの共有が大切であると考えている。

技術委員会では、1998年ワールドカップ・フランス大会を分析し、ビデオと解説書を発刊している（会場では、ビデオを一部上映した)。大会を子細に分析することにより、評価を行い、日本のナショナルチームの課題を抽出し、それを克服するにはどうすればよいかを検討した。

ところで、日本サッカー協会における技術委員会とは、ナショナルチーム（ナショナルチームに関すること)、ユースディベロップメント（ナショナル・各都道府県トレーニングセンターの活動)、コーチングエデュケーション（指導者養成に関すること）の各部門を一括して運営する組織である。以前は別々の組織だったが、1977年ナショナルトレーニングセンター構想ができ、養成コーチの行き先（トレーニングセンター）を作る過程で統合された。

(2) に関しては、多くの希望者が受講できるような指導者養成システムの構築を行った。当初は、文部省公認のC級コーチとB級コーチの養成講習会は同年度には開催できないという規定により、日体協の許可が下りず、単年度には1コースしか設置できなかったが、技術委員会の粘り強い活動で、C級コーチについて言えば、2000年度は6コース、2001年度は9コースを開講することができるようになり、B級コーチも2000年度に2コースと、C級コーチとB級コーチの養成講習会も同年度に開催できることになった。また、日本サッカー協会が指導者養成に使ったお金は数千万円になっている（前述のワールドカップ・フランス大会の分析ビデオにも数千万円の資金を投入した)。

静岡県にJリーガーが多いのは、生まれてから生活していく中でサッカーの指導者と出会う環境がそこにあるからである。例えば、北海道に生まれたために、良い素質を持ちながら代表に入れないということが、仮にあったとしたら、これはサッカー協会としての大きな損失である。そのようなことが起こらないようにするためにも、全国の指導者のレベルを上げるために、教本やビデオを作成・販売しているのであり、また、そのために莫大な資金を投入しているのである。

全国からゴールデン・エイジの時代の子供が集まった場合、「これだけは必ず教えられていなければならない」としたものを教本に載せ、全国で最低限の指導がなされるようにもしているのである。

また、サッカー協会としては、2002年のワールドカップは通過点と考えており、今後の課題は、その後どう日本のサッカーを再構築していくのかを考えることであると考えている。

小学校ハンドボールの現状

日本ハンドボール協会指導委員会　角　紘昭

〈指導要領の内容の取り扱いでハンドボールが登場〉

2002年度の小学校指導要領の全面改定に際し、「内容の取り扱い」でハンドボールが加わったことは周知の事実である。加わった理由としては、以下の3点が挙げられる。

(1) 走跳投すべてにおいて全力で行える運動であること。

(2) ゴールした達成観を味わうことができ、適度の身体接

触があること。

(3) パスなどが容易にできるため、戦術学習ができること（即ち、協力・役割分担ができる)。

つまり、体育の授業のボール運動で、ハンドボールを通して「生きる力」を学ぶことができるからである。

しかし、日常生活の中で片足で飛ぶといった遊びが少ないため、ジャンプシュートなどの技術を習得するには年齢によって段階を追うことが必要となる。

①ボールに慣れ親しむ「ボール操作の技能を高める運動」

②身体接触に慣れていく「ボディコントロールを高める運動」

③ハンドボールにつながる「リードアップゲーム」

〈名古屋市における小学生ハンドボールの現状〉

名古屋市における小学生ハンドボールのチーム数は、1999年度は45チームであったものが、2000年度は33チームに減少してきている。

この原因として、教員（指導者）の高齢化が挙げられる。指導者の高齢化により、エネルギッシュな子供とともに動けなくなっているのが現状である。ここで学校教育（体育）のあり方が問われている。今後は、市町村のスポーツクラブ育成事業に積極的に参加し、ハンドボールを広めるべきであろう（NPO法・スポーツ振興くじ法・地方分権推進計画・PFI法などを研究すべきである)。また、スポーツ教室終了後の受け皿（指導者の確保など）を考えていく必要もある。

ビーチハンドボールについて

本間誠章

日本ハンドボール協会と千葉県ハンドボール協会のビーチハンドボールへのこれまでの取り組みと、2001年に秋田県で行われるワールドゲームズに向けての取り組みが、紹介ビデオや大会時の千葉テレビの番組取材などを通じて紹介された。

〈日本におけるビーチハンドボール普及の流れの説明〉

1996年　IHFから日本協会にビーチハンドボールの競技規則とゲーム風景のビデオが紹介される。日本協会より千葉県に、ビーチハンドボールの実施を依頼。

1997年　千葉県の富浦町海岸において、第1回全国ビーチハンドボール大会と第1回関東ビーチハンドボール大会が実施される。(以後毎年開催)

1998年　IHFより、日本協会にワールドゲームズ（2000年秋田・公開競技）に協力依頼。日本協会内にビーチハンドボール委員会が設置される。
ワールドゲーム98（秋田）に公開競技として参加する。

1999年　第1回全日本ビーチハンドボール選手権大会開催（千葉)。参加チーム中から代表2チームがワールドゲーム99（秋田）に参加する。

2000年　国際ワールド協会（IWGA）がワールドゲームズ2001秋田大会において、ビーチハンドボールを公開競技として正式決定する。(秋田県本荘市)

〈加盟チーム数の報告〉

加盟チームは年々増加の傾向にあり、1999年現在では、男子42チーム、女子26チームである。

〈競技特性の説明とビデオ（英語版）による主なルールの解説〉

・ボールがスポンジ状で比較的小さい（男子用：重さ360g、円周54～56cm、女子用：重さ290g、円周50cm）ため、操作が容易である。また、砂地でどこに弾むかわからないという意外性と、屋外で行うことによる開放感がある。

・1チーム最大4名のプレイヤー（3名のコートプレイヤーと1名のゴールキーパー）が常時出場できる。

・27m×12mのコート内にアウターゴールラインに平行にゴールエリアライン（6m）を引く。

・競技は得点上独立した、2つのハーフ（前半、後半）から成り立つ。各ハーフは10分間で、それぞれ1回ずつのタイムアウトをとることができる。また、ハーフタイムは5分間である。

・前・後半で両チームが一つずつ勝った場合（ポイント1：1)、「ワンプレイヤー対ゴールキーパー方式」(ワンマン速攻）が採用される。

・与えられる得点は次の通り、状況によってそれぞれ異なる。また、得点後はゴールエリアからのゴールキーパースローによって競技を再開する。

(1点）単純なゴールでの得点

(2点）スカイプレーでの得点、6mスローでの得点、ゴールキーパーのプレイングエリアからの得点、「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」の際のゴールキーパーの得点

(3点）ゴールキーパーのスカイプレーの得点、ゴールキーパーの6mスローによる得点、「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」の際のゴールキーパーのファールによる6mスローでの得点

〈ルール・レフェリーの留意点〉

27m×12mのコート内での立ち位置、不正交代への注意、スカイシュート（2P）の見極め、ルール変更の解説（5月関東大会において本年度のルールを配布）

【シドニーオリンピック・ハンドボールトーナメント男女日程決まる】

国際ハンドボール連盟（IHF）は、2000年オリンピック組織委員会（SOCOG）と共に、9月16日〜10月1日まで、シドニーのオリンピック公園の2会場で開かれるハンドボール男女トーナメントの公式試合日程を決定した。

それぞれの試合のスローオフ時間は現時点ではまだ決まっていない。IHFはむしろ、各国連盟、テレビ局などの関係メディアなどに、彼らの希望するスローオフ時間を知らせて欲しいと考えている。決勝戦の時間もこれを考慮して計画される。発表されている各試合時間はSOCOGとIHFが共に調整したものではないので、決して公式なものではない。

シドニーオリンピック・ハンドボールトーナメント参加国一覧と試合日程

◆◇◆◇◆◇◆　女　子（9月17日〜10月1日）　◆◇◆◇◆◇◆

Aグループ：フランス、ルーマニア、ハンガリー、韓国、アンゴラ

Bグループ：ノルウェー、オーストリア、オーストラリア、デンマーク、ブラジル

9月17日	9月19日	9月21日
韓国：フランス	フランス：ハンガリー	ブラジル：オーストリア
デンマーク：ノルウェー	ノルウェー：オーストラリア	アンゴラ：ルーマニア
ハンガリー：アンゴラ	ルーマニア：韓国	オーストラリア：デンマーク
オーストラリア：ブラジル	オーストリア：デンマーク	ハンガリー：韓国
9月23日	**9月25日**	**9月28日**
アンゴラ：フランス	デンマーク：ブラジル	A5位：B5位（9・10位決定戦）
ブラジル：ノルウェー	韓国：アンゴラ	A1位：B4位（準々決勝1）
ルーマニア：ハンガリー	ノルウェー：オーストリア	A2位：B3位（準々決勝2）
オーストリア：オーストラリア	フランス：ルーマニア	A3位：B2位（準々決勝3）
		A4位：B1位（準々決勝4）

9月29日	9月30日
準々決勝1勝者：準々決勝3勝者（準決勝1）	準々決勝1敗者：準々決勝3敗者（順位決定戦1）
準々決勝2勝者：準々決勝4勝者（準決勝2）	準々決勝2敗者：準々決勝4敗者（順位決定戦2）

10月1日
順位決定戦1敗者：順位決定戦2敗者（7・8位決定戦）
順位決定戦1勝者：順位決定戦2勝者（5・6位決定戦）
準決勝1敗者：準決勝2敗者（3・4位決定戦）
準決勝1勝者：準決勝2勝者（1・2位決定戦）

◆◇◆◇◆◇◆　男　子（9月16日〜9月30日）　◆◇◆◇◆◇◆

Aグループ：ロシア、ユーゴスラビア、ドイツ、エジプト、キューバ、韓国

Bグループ：スウェーデン、スペイン、フランス、オーストラリア、スロベニア、チュニジア

9月16日	9月18日	9月20日
ドイツ：キューバ	韓国：ドイツ	スウェーデン：チュニジア
フランス：スロベニア	チュニジア：フランス	ロシア：韓国
ユーゴスラビア：韓国	エジプト：ユーゴスラビア	オーストラリア：スロベニア
スペイン：チュニジア	オーストラリア：スペイン	エジプト：キューバ
ロシア：エジプト	キューバ：ロシア	スペイン：フランス
スウェーデン：オーストラリア	スロベニア：スウェーデン	ユーゴスラビア：ドイツ
9月22日	**9月24日**	**9月26日**
韓国：エジプト	スロベニア：チュニジア	A6位：B6位（11・12位決定戦）
チュニジア：オーストラリア	キューバ：韓国	A5位：B5位（9・10位決定戦）
ユーゴスラビア：キューバ	フランス：オーストラリア	A1位：B4位（準々決勝1）
スペイン：スロベニア	ドイツ：エジプト	A2位：B3位（準々決勝2）
ドイツ：ロシア	スウェーデン：スペイン	A3位：B2位（準々決勝3）
フランス：スウェーデン	ロシア：ユーゴスラビア	A4位：B1位（準々決勝4）

9月29日
準決勝1敗者：準決勝3敗者（順位決定戦1）
準決勝2敗者：準決勝4敗者（順位決定戦2）
準決勝1勝者：準決勝3勝者（準決勝1）
準決勝2勝者：準決勝4勝者（準決勝2）

9月30日
順位決定戦1敗者：順位決定戦2敗者（7・8位決定戦）
順位決定戦1勝者：順位決定戦2勝者（5・6位決定戦）
準決勝1敗者：準決勝2敗者（3・4位決定戦）
準決勝1勝者：準決勝2勝者（1・2位決定戦）

アジア エグゼクティブのために2セミナー

今年、IHFはアジアのエグゼクティブのためのセミナーを2回開く。第1回目は4月20~24日にヨルダンのアンマンで開催予定。第2回目はバンコク、香港、マレーシアのいずれかで開催する。エグゼクティブのためのセミナーはオリンピック・ソリダリティの支援を受けているが、その第1の目的は各国ハンドボール連盟の会長、専務理事、財務担当の一層の研修をはかるものである。

ブックレット・シリーズ 女性とオリンピック

IHFのブックレット(小冊子)シリーズに2冊が加わった。ブックレットナンバー22の主題は、"女性とハンドボール"に関する初めてのセミナー(1999年ノルウェーのハマルで行われたもの)である。9名の講師による広範囲なテーマについての講演が50ページの小冊子にまとめられた。また、ブックレットナンバー11"ハンドボールとオリンピック大会"には、1936ベルリン大会から、1996アトランタ大会に至るまでのハンドボールトーナメントのすべての名前、データ、結果が記録されている。どちらの本もバーゼルの事務局で注文できる。

チャレンジトロフィーを支援

IHFの支援を受け、ヨーロッパ・ハンドボール連盟は女子ナショナルチームのためのチャレンジトロフィーを、5月にベルギーで開催する。トーナメントの目的は、ヨーロッパ・ハンドボールのトップ間のギャップを埋めるためである。IHFは、チームの大会参加を旅費の一部を負担することで、補助している。そのためボスニア―ヘルツェゴビナ、フィンランド、イスラエル、ラトビア、ルクセンブルグが参加できそうである。さらに、ホスト国のベルギーがトーナメントに参加する。

1999年　フォト・オブ・ジ・イヤー

テレビ時代にあっても特別な美意識と、ハンドボールの素晴らしいダイナミズムを発信する写真は重要な役割を果たす。どのようなスポーツであっても、その最も素晴らしい姿を公に見せるため、魅力的で人目を引く写真を必要としている。こうしたことから、国際ハンドボール連盟は第4回になる〝年間写真賞〟を発表する。尚、このコンテストの賞金総額は1万スイスフラン(約65万円)であり、昨年は30ヶ国から約100枚の写真が届けられた。コンテスト規則と参加方法を以下に抜粋するが、これはIHFの公式機関紙ワールド・ハンドボール・マガジン誌にも発表される。

(規　則)

1999年1月1日~12月31日までに新聞雑誌に発表されたハンドボールの写真で、オリジナルの出版物であると証明できるものなら、誰でも応募できる。つまり、このコンテストはプロにもアマチュアにも開放されている。応募者は全てに表題をつけ、日付、写真を撮った場所、試合であればその旨と写真に写っている人も含めて連絡をすること。

(参加方法)

コンテストに参加するには、写真(一人3枚まで)とプルーフをIHFの写真コンテスト係(Photo competition) P.O. Box 312, CH4020 Basel, Switzerlandまで送付すること。提出された写真の版権はコンテストが終わるまでIHFに転属する。応募は2000年7月末日まで。

(誰が、いつ、入賞者を選ぶのか?)

5人からなるジュリーは、IHF専務理事レイモンドハーンを議長としてジャーナリストと現役ハンドボール選手が務めるが、写真が伝えるもの、オリジナル性、技術的な質といったことを基準に応募写真を審査する。最優秀の写真と入賞者はシドニーオリンピックの期間中に発表され、またワールド・ハンドボール・マガジン誌にも発表される。

続・NTシステムについて

事業・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

日本協会が打ち出した「ハンドボール文化の構築」を基本理念とする強化策の核として掲げたナショナルトレーニングシステム（ＮＴＳ）がいよいよ７月から動き出す。新世紀へ向けての画期的な構想であることは間違いないところである。

本誌４、５月号に蒲生晴明運営委員長が詳しく触れているから、ご存じであろう。また、大まかにシステムについては、先月号の本欄でも紹介したので、今回は成功への周囲の問題点を取り上げてみたい。

このシステムは、選手の発掘、育成、強化と平行して、指導者の育成も重要なテーマである。とりわけ、選手の発掘が大きなテーマだろう。

日本のスポーツ界は長年にわたって、スポーツクラブを主体としたヨーロッパ型と異なり、学校スポーツを主流に発展、強化が図られてきた。いわば学校現場の指導者に委ねてきたわけである。その発想では今回のＮＴシステム構想が崩れることになりかねない。

もっとも大きな直面する問題は、いかに地方の指導者を動かすか、興味を持たせるか―ではないだろうか。学校クラブでは指導者がおらず、生徒たちだけで練習をこなしているところさえある。指導者の育成が早急に求められるし、そうしたところにいる“有望な人材”をどのようにして発掘するかである。

全国には、そうした目が届かず、せっかくの有能な人材が埋もれたままで終わってしまった例は、数多くあるのではなかろうか。この実態をどのようにして発掘、強化を図っていくか。これがトップ、ひいては日本のレベルアップにつながる大きなカギのような気がする。

まずは広い範囲に目が届く“スカウト網”をどう張りめぐらせるのか。現場を預かる教師、あるいはクラブ、実業団の指導者らがどこまで的確な情報をつかめるか。最も大切であり、重要なテーマであると思うのだが、どうだろうか。

そのためにも地方協会や組織などとのコンセンサスを十分に取っていかなくてはなるまい。地方との結びつきが不十分では、せっかくの長い間待ちこがれた構図が崩れていってしまう。焦らず、じっくりと意思の疎通を図っていくことである。

素晴らしい才能を持った人材が、他の競技に持っていかれることにでもなれば、それこそ大きなマイナスであろう。まずはしっかりとしたブロックごとの理解を求め、それを都道府県にもつないでいくことであろう。それには、じっくりとした話し合い、意見交換、それぞれの実態の把握が大切だ。スケジュールはともかく、結果を急ぎすぎてはなるまい。互いに納得して取り組むことである。「急いて事を仕損じる」の通り、焦らず、膝を交えて意見交換をしてもらうことだ。各地方にはそれぞれの事情もあるはずだ。

ANA

※貯めたマイルは、航空券に換えてからご利用ください。

ANA

ANA MILEAGE CLUB

012 345 6789

PICK ME UP!

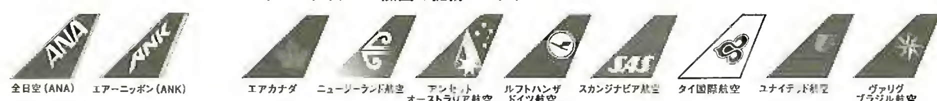
ENOUGH MILES!!

The MILEAGE of MILEAGES

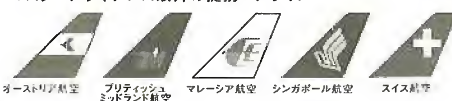
ネットワークがひろがって、マイルがさらに貯めやすく、使いやすくなりました。

今、全日空の空が大きく広がろうとしています。充実した国内線はもちろん、国際的な航空会社ネットワーク「スターアライアンス」への加盟により、国際線もさらに拡大。マイレージも、ぐっとワイドに貯まります。選ぶなら、やっぱり「ANAマイレージクラブ」。貯めやすさが断然ちがいます。

*スターアライアンス加盟の提携エアライン



*スターアライアンス以外の提携エアライン



ANAマイレージクラブ

10月31日 全日空は、スターアライアンスに加盟。世界112ヶ国以上、760以上の都市をネットワークで結びます。

寄稿 ドイツで活躍する女性レフェリーの紹介

大阪府　光島磯雄

近着のドイツレフェリー研修誌と情報誌（いずれもフイリプカ社）に掲載された記事の中で、優秀な女性レフェリーのデビューについての紹介記事があり、先頃のプレーオフに来日し、レフェリー研修会でビューロが発言した女性レフェリーの進出を期待するとの言葉と関連して、これを紹介する。ドイツのように組織をあげてエリートレフェリーを養成する環境伝統とは比べるべくもないが、羨ましがっているだけでは進歩はないので、文中から参考になることは積極的に摂取してもらえるよう審判OBの一人として希望する。

「強力ペア、ユッタ・エールマン／ズザンネ・キュンツィヒの登場」

わがドイツの女子ナショナルチームは今回の世界選手権大会ではみじめな失敗に終わってしまった。これに反して明るいニュースとして２人のバーデン州（ドイツ南西部）出身の女性レフェリーが期待どおりのはたらきを示したことを紹介しよう。

ユッタ・エールマンとズザンネ・キュンツイヒはこれまで中国での世界女子ジュニア大会と今回の世界女子選手権大会で完璧に近い活動を示してくれた。この両人は1984年以来、カールスルーエ地方協会・バーデン州協会そしてレギオナルリガ（3部相当のリーグ）を経験してドイツ協会Ａ級資格に到達した。

「すばらしいのは彼女らの夫達の理解の深さと高さである」

彼女らが知られるようになったのは、従来男性がプレーするブンデスリガで史上最初の女性ペアとなったことによる。伝統的で古典的とも言われるグロスヴェルシュタット対グンメルスバッハ（共に強力なクラブチーム）の試合を担当したのが記念すべき発端序幕となったのである。はじめのうちはこのレベルの試合に参加させることは多分に危ぶまれたが、回数を重ねるごとに正常な方向に成長して後援者を喜ばせた。ブンデスリガの白熱した試合をいくつか経験して、今やこのペアはおしもおされぬ安全確実なレフェリーとしてのイメージを彼女ら自身でものにしたわけである。

どちらかと言えば「まあまあの出来」といわれる男性ペアが試合を吹いたあとで、次の「ネッテルシュテット」対地元チームの定例試合を担当したエールマン／キュンツイヒペアは注目に値するできばえを示した。おおかたの意見は、「はじめの試合をこの２人に吹かせれば良かったのに」というむきが大半を占めたのである。この時の実地成果がすばらしかったことで、ドイツ協会Ａ級レフェリー中5位相当としてランクづけされて、公式に認められるとの賛辞をあわせて送られる存在となった。

この成功に到達するまでは、誰もが知るとおり自分自身の意識を高めて「汗をだす」「労苦をいとわない」という意味で代価の支払いを神々は求めたといえよう。

四六時中ルール問題と取り組み千変万化の試合状況を身をもって体験することは、とりもなおさず、「一にも二にも走ること」に尽きることを意味している。中国での世界女子ジュニアや世界女子大会に指名され、その準備として両人は1998年12月（半年前から）週2回各45分のランニングトレーニングプランを実行したという。主に森やスポーツジムのトレッドミルで一定距離をこなすとか、時には勤め場所から自宅まで走って帰るなどのプランを習慣化して規則的に実行したとのこと。

エリートレフェリーへの道をたどるための必要経費にしても決して少ないものではなかった。中国でのジュニア大会から帰国して荷物をかたづける暇もなく、バートウーラッハ（ドイツ南部の小都市）で3日間シルビア・シュミットとミヒャエラ・エラー（ともにドイツの有名なナショナルプレーヤー）の引退試合にも参加し、その後も7月から12月まで次々と約30試合担当したが、このような激務にも彼女らはよく受け入れて実行したのである。世界女子大会直前の準備ではランニングプランを週３－４回に増やして脈拍計測を含めて課題レベルを強化したとのこと。

スポーツ医学的な健康管理面では、1999年３月からケルン体育大学勤務でIHFの嘱託医師もしている元女子ナショナルプレーヤーのペトラ・プラーテン博士に世話になった。そこでのトレーニングはインターナショナルレフェリーを目指すために必ず到達すべきとされる指針が示された。1999年3月にはケルン体育大学でランニングなどのトレーンング内容と実質価値と効果を検証してもらい「合格」とされた。中国での笛がうまく吹けたのはこのおかげだと思っているとのこと。両人はそれぞれ居住地が違うので「別々にトレーニングするが、笛を吹く時は一緒」という形で任務実行にあたったわけである。動機づけとか実施状態の違いはなんら問題にすることはなかった。

上記のことをないがしろにすると名誉ある前途・早い出世昇進はないものと考えるべきである。「両人が規律を自身にあてはめて、必要とされる規定課題に合格し資格取得を共通の目的とする以上、コンディショニングに失敗すればすべてが無に帰すことになったであろう」

双方のコンディションとルール知識をレフェリング技術と適合させること

コンディショニングには当然ながらルール適用技術の面も準備内容として含まれる。基準の達成度は各大会前に実施されるテストで確認される。DHB／EHF／IHFともに必ず実施されるが、このたびは両レフェリーにはいくつかの理論面で集中徹底的に勉強するよう求められた。彼女らがこの勉強に本格的に取り組んだのは大会の4週間前であった。週に3回2時間をこれにあてて各自で研究学習し、週に1回は両者共同して2～3時間研究と勉強に励んだ。実地の吹笛テストではついに彼女らは1位と評価されるに至ったのである。実地の試合はヨーロッパカップの試合とはユーゲント（20才未満のチーム）の国際試合、ブンデスリガ1部2部または3部にあたるレギオナルリガでのレフェリングが対象となったのである。

準備過程で彼女らは、見識や洞察力についてはこの際確実なものとするためくどいほど繰り返し検討を重ねたという。「こんなに多くて複雑多岐な過程を通らなければならないという苦労と努力がはたして報われるだろうか？」と悩んだこともあるとのこと。

テストに合格する！

ドイツ協会期待のペアの成績内容は極めて優秀と認められた時の試合会場は、彼女らがノルウェーチームの試合に関わることが続いたことでもあり、大歓声とともに雰囲気はいやがうえにも盛り上がり、感動的ですらあったのである。ノルウェーでのプレーヤー達の人気評判とレフェリーの存在と評判は比較できることではないが、このたびは新聞雑誌などのマスメディアは数ページにわたってユッタ／ズザンネの写真で占められ、特に試合場面（ノルウェー対チェコ、旧ロシア対ポーランド）でのアクションやパフォーマンスがハイライトとして掲載され、彼女らの生涯最良のときを紙面上に飾ってもらったのである。

彼女らの個人的な生活行動態度のトータルパフォーマンスも好評であったし、大会開始前のルールテストや、IHFが実施した血液中の乳酸値測定（ラクタートテスト）も良好な結果であった。観察を専門とするグループからも16ペアのIHFレフェリー中、上位に格付けも可能との評価もあったことを付け加えておく。

若干の遺憾なこととしては、彼女らがドイツ国籍のため、これまで国際舞台に登場することは、ドイツ国内の事情（ペア数やエリート候補者の定員など）の関係でチャンスはなかったが、今後は推進役または教育係として彼女らを発見してプロジェクトに入れたマンフレット・プラウゼがベストを尽くすであろう。彼こそは海千山千のエキスパートとして両人を周到な注意力で大きく育てることであろう。

EHF審判主任プラウゼがたまたまシュッターワルトでの試合で彼女らのレフェリングを眼にしたのは4年前だが、これは近い将来ものになりそうだと感じて関心を向けるようになった。それ以来、彼女らは彼から懇切な指導をうけ、しかも同時に有力有名プレーヤーとの友人関係も持つことができるようになった。彼らの意見批評は時には厳しく激しく辛辣そのものであったが、国際レベル舞台への道程は不可欠不可避の経験としてまことに貴重なものであった。つまりあくまでも前向きの姿勢・態度の維持である。

両人にとってブンデスリガ審判主任ウイリー・ハックルが一貫した支援体制を組んでくれたことも忘れてはならない。彼女らのグロスワルシュタットでのはじめてのブンデスリガ吹笛では、中程度の（許容される）パニックはたしかに見られたのも事実であるが、この時のウイリー・ハックルの激励鞭撻の言葉と講評は現在もなお大いに活かされている（助けられている）次第である。

その後、彼女らが特設上級レフェリー研修コースに編入され、最新最良の情報知識に接することで、この上なくやりがいを感じたわけである。

今後の彼女らに望むこととして、世界選手権大会で好評を受けたことは一応帳消しにして、今後もその種の機会が与えられるよう努めてもらいたい。とりあえず春にはブンデスリガの各試合、続いてスペインでの女子ヨーロッパカップ大会のセミファイナルでの吹笛が予定されており、変わらぬ精進努力による大成を期待してやまない。

プラウゼのアドバイス

最後にEHFの審判長プラウゼのアドバイスとして、彼の長年にわたる経験を3つの簡単な原則として述べているので以下に示す。

1. 耳で聞くより自分の眼で確かめること（聴覚より視覚）
2. 自分自身を見せびらかさないこと（レフェリーはスタンドプレーをしてはならない）
3. 自分自身を尊大な態度行動にしないこと（自重自戒・be gentleman）

第5回ジャパンオープンハンドボールトーナメント
(Japan Open Handball Tournament)
第56回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会
開 催 要 項

1. 主催 （財）日本ハンドボール協会、富谷町、大和町、大郷町、富谷町教育委員会、大和町教育委員会、大郷町教育委員会、新世紀・みやぎ国体富谷町実行委員会、新世紀・みやぎ国体大和町実行委員会、新世紀・みやぎ国体大郷町実行委員会

2. 主管 宮城県ハンドボール協会

3. 後援 （財）日本体育協会、宮城県、宮城県教育委員会、新世紀・みやぎ国体実行委員会、（財）宮城県体育協会、富谷町体育協会、大和町体育協会、大郷町体育協会

4. 期日

男子の部 平成12年8月10日（木）～8月13日（日）〈4日間〉

女子の部 平成12年8月10日（木）～8月12日（土）〈3日間〉

5. 会場

男子の部（富谷町、大和町、大郷町開催）

富谷スポーツセンター 所在地 富谷町一ノ関字臑合山6－8

宮城大学体育館 所在地 大和町学苑1

フラップ大郷21 所在地 大郷町中村字北浦58－1

女子の部（大和町開催）

大和町総合体育館 所在地 大和町宮床字松倉92

宮城大学体育館 所在地 大和町学苑1

6. 種別 男子の部・女子の部

7. 参加資格

(1) 平成12年度（財）日本ハンドボール協会に年度当初「一般A」に登録された単独チーム及び個人とする。但し、大会申し込み締め切り後の追加・移籍での登録は認められないまた、日本リーグ（「一般L」登録）・全日本学生ハンドボール連盟・全国高等学校体育連盟ハンドボール部・全国高等専門学校ハンドボール部に登録されたチーム及び個人の出場はできない。

(2) 各地区の予選を通過したチームまたは地区の推薦を受けたチームとし、開催県は男女各1チームの出場を認める。

(3) 中学生以下の出場は認めない。

(4) 各ブロック出場割り当て数について

地区	北海道	東北	関東	北信越	東海
男子	1	4	6	3	3
女子	1	2	3	1	2

近畿	四国	中国	九州	開催県	計
5	2	3	4	1	32
2	1	1	2	1	16

※注 各都道府県・ブロック予選にあたっては、選手登録の確認についてそれぞれの協会が責任をもって行うこと。また、各都道府県代表による2チーム以内が出場することによって実施されることが望ましい。

8. 参加人数

男女とも、1チーム役員6名以内、選手16名、計22名以内とする。（監督が選手を兼ねる場合は選手としても参加申し込みをすること。）

9. 競技規則

平成12年度「（財）日本ハンドボール協会競技規則」による。

10. 競技方法 男女とも「トーナメント方式」による。

11. 組み合せ抽選会

日時 平成12年7月8日（土）18時00分より

場所 （財）日本ハンドボール協会

日本ハンドボール協会の責任において抽選をする。後日、主管協会を通じて各チームへ連絡する。

12. 表彰

(1) 男女とも優勝チームには日本ハンドボール協会会長杯（持ち廻り）を授与する。

(2) 第1位から第4位までのチームには賞状を授与する。

(3) その他

13. 競技申し合わせ事項

(1) 同点の場合の延長戦は、準決勝までは、第1延長とし、その後7mTCで決する。

(2) 背番号は、大会申込書に記載された番号（№1～16）と同一のものを使用する。

(3) シューズは、体育館履き専用を着用し、屋外履きシューズとの区別をすること。

(4) 試合球は、男女とも「公認球（現在メーカー未定）の手縫いボール」とする。

(5) 松ヤニのみ使用を認める（松ヤニスプレーは禁止する）。

(6) チーム責任者「指定のマーク」をつけること。

14.その他の事項

(1) 本大会の結果、男女とも上位チームは「全日本総合選手権大会」に推薦される。

(2) チーム責任者は、大会期間中の選手の行動に関して一切の責任を負うものとする。

(3) 大会参加のチーム役員・選手は、必ず大会事前に健康診断を受けて参加するものとし、大会中は健康保険証を持参すること。なお、各チームの選手は各自スポーツ障害等の保険に加入のうえ大会に参加する。

(4) 競技中に生じた疾病・障害等の応急処置については主催者側で対応するが、その後の責任は一切負わない。

(5) 参加チームは、部旗（旗竿を含む）または、それに準ずる旗を用意する。

平成12年度
男子43回・女子27回全日本教職員選手権大会
実施要項

1. 主催 （財）日本ハンドボール協会
全日本教職員ハンドボール連盟

2. 主管 愛媛県ハンドボール協会 松山市ハンドボール協会

3. 後援 愛媛県教育委員会 （財）愛媛県体育協会 松山市
松山市教育委員会 （財）松山市体育協会

4. 協賛 （株）モルテン （株）ミカサ
（株）デューパーファイブ

5. 期日
平成12年7月25日（火）～28日（金） 4日間

6. 会場
愛媛県総合運動公園体育館
（〒791－1136）愛媛県松山市上野町乙46番
TEL：089－963－3211 FAX：089－963－4104

7. 参加資格
平成12年度（財）日本ハンドボール協会に登録されたチームで、全日本教職員連盟に登録・加盟しているチームとする。

8. 参加人員
(1) 役員は4名と選手16名の計20名
(2) 背番号は№1～16の通し番号とする

9. 式典等の日程

[区分]	[開催日時]	[開催場所]
組合抽選会	平成12年6月23日（金）	愛媛県立松山東高等学校会議室
開会式	平成12年7月25日（火）	ホテル「ツルイ」15:30～
表彰式	平成12年7月28日（金）	愛媛県総合運動公園体育館
閉会式	平成12年7月28日（金）	愛媛観総合運動公園体育館

10. 諸会議等日程

[区分]	[開催日時]
審判会議	平成12年7月25日（火）13:00～
理事会	平成12年7月25日（火）13:50～
代表者会議	平成12年7月25日（火）15:00～
評議委員会	平成12年7月25日（火）16:00～

[開催場所] ホテル「ツルイ」

11. 競技運営等
(1) 競技規則は、平成12年度（財）日本ハンドボール協会競技規則による。
(2) 競技は、トーナメント方式により実施する。（チーム数によりパートリーグ戦の後、決勝トーナメントに変更する事がある）
(3) 競技時間
ア、競技時間は、男女とも準決勝までは、25分（10分）25分、第1延長後、7mTCで決する。
イ、3位決定戦は、25分（10分）25分、延長は行わず、7mTCで決する。
ウ、決勝戦は、30分（10分）30分、第2延長後、7mTCで決する。
(4) ユニフォームは、各チーム異なる色濃淡2着を必ず用意し、各選手の背番号は、参加申込書に記載した選手番号と同一の番号とすること。
(5) シューズは、屋内用と屋外用の2足を準備すること。
(6) ボールは、各チームで用意した体育館用のボールで練習すること。（試合球は用意する）
(7) 松やに・松やにスプレーの使用は、禁止する。（両面テープのみ可）
(8) チームの責任者は、（財）日本ハンドボール協会制定のマークを着用すること。またキャプテンは、キャプテンマークを着用すること。

12. 宿泊
宿泊を希望するチームは、別添「宿泊要項」により期日までに申し込むこと。

13. その他
(1) 申し込み責任者は、選手の一切の行動に関し責任を負うものとする。
(2) 参加選手は、必ず健康診断を受けて参加するとともに、共済組合員証（健康保険証）を持参のこと。
(3) 競技中の疾病、障害の応急処置については主催者で行うが、その責任は終えない。
(4) 閉会式（表彰式）にはユニフォームを着用し参加すること。
(5) その他
ア、必要な事項は、関係者の協議により決定する。
イ、試合球は、モルテン・ミカサの手縫いボールとする。
ウ、競技場は、38m×20mの2面設営。

平成12年度全国中学校体育大会

第29回全国中学校ハンドボール大会要項

1. 目的　この大会は、中学校教育の一環として、中学校生徒に広くハンドボール実践の機会を与え、技能の向上とアマチュアスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健康な中学校生徒を育成するとともに、中学校生徒相互の親睦を図るものである。

2. 主催（財）日本中学校体育連盟（財）日本ハンドボール協会　沖縄県教育委員会　浦添市教育委員会　東風平町教育委員会

3. 後援　文部省　全日本中学校長会　都道府県教育長協議会　全国市町村教育委員会連合会　沖縄県　浦添市　東風平町　沖縄県中学校長会（財）沖縄県体育協会　毎日中学生新聞　琉球新報社　沖縄タイムス社　沖縄テレビ放送株式会社　琉球放送株式会社　琉球朝日放送株式会社　ラジオ沖縄

4. 主幹　九州中学校体育連盟　沖縄県中学校体育連盟　沖縄県ハンドボール協会　那覇地区中学校体育連盟　島尻地区中学校体育連盟

5. 会期

平成12年8月22日（火）～25日（金）

22日（火）開会式 16時00分～

23日（水）1・2回戦 24試合 9時00分～

24日（木）3回戦・準決勝戦 12試合 9時00分～

25日（金）決勝戦 2試合 9時00分～

閉会式　競技終了後 12時30分予定

6. 会場

浦添市民体育館

〒901－2103 浦添市仲間1丁目13番1号

℡098－876－7322

東風平町営体育館

〒901－0401 東風平町字東風平1076番地

℡098－998－2140

7. 参加数

	北海道	東北	関東	北信越	東海
割当数	1	1	3	2	3

近畿	中国	四国	九州	開催地	合計
3	2	1	3	1	20

（男女同数）

8. 競技規則

平成12年度（財）日本ハンドボール協会競技規則による。

使用球は（財）日本ハンドボール協会検定球（手縫いボール2号）とする。

9. 競技方法

(1) トーナメント方式とし、3位決定戦は行わない。

(2) 競技時間は25分－10分－25分

同点の場合は延長戦を行う。準決勝戦までは第1延長、決勝戦は第2延長まで行い、決しない場合は7mTCによって決する。

10. 表彰および参加章

(1) 優勝校に、（財）日本中学校体育連盟より優勝トロフィー、（財）日本ハンドボール協会より優勝旗・（財）日本ハンドボール協会優勝杯（持ち回り）を授与する。

(2) 優勝以下第3位までには、賞状ならびにメダルを授与する。

(3) 本大会登録選手全員に参加章を授与する。

11. 諸会議

（財）日本中学校体育連盟ハンドボール競技部会

①8月21日（月）13時00分～16時00分『オーシャンビューホテル』

②8月22日（火）9時00分～10時00分『オーシャンビューホテル』

審判会議 8月22日（火）

11時00分～12時00分『浦添市ハーモニーセンター』

審判研修会 8月22日（火）

12時30分～13時30分『浦添市ハーモニーセンター』

監督・主将会議 8月22日（火）

14時00分～15時00分『浦添市ハーモニーセンター』

12. その他

(1) 選手の背番号は、№1～№15を使用することが望ましい。大会申し込み後の番号の変更は認めない（背番号は大会申し込みの番号と同一であること）。

(2) ユニホームは、CP、GKともに濃淡のはっきりした区別のできる2着を用意すること。

(3) 出場チームは、必ず引率責任者によって引率されなければならない。また引率責任者は選手すべての行動に対して責任を負うものとし、選手は中学生としての本分を忘れてはならない。

(4) 申し込み後の選手、氏名変更は所定の用紙に記入の上、監督・主将会議前に大会事務局まで提出すること。

(5) 松ヤニ、松ヤニスプレーの使用は禁止する。ただし、粘着テープの使用は認める。

(6) 大会期間中の負傷・疾病については、日本体育・健康保健センター法の定めを適用する（参加者は健康保険証を持参すること）。

(7) 抽選は、主催者および関係者立ち会いによる責任代理抽選とし、決定しだい関係都道府県中学校体育連盟、参加チームに連絡する。

(8) 同一中学校で男女出場するチームの同時刻、別コート（会場）での試合は、第1試合（1・2回戦）のみできる限り考慮する。

(9) 開会式参加にあたっては、ユニホームを着用すること。

(10) 男女3位のチームは閉会式への参加をお願いします。

(11) 練習会場は、後日出場校に連絡する。

(12) 参加校は、校名旗または代表旗を持参すること。なお、旗竿も忘れないこと。

第12回全国小学生ハンドボール大会
開催要項

1. 趣旨

本大会は、全国の少年少女にハンドボール競技の歓びを経験する機会を広く提供し、競技を通じて少年少女相互の交流と友情を深めるとともに、体力の増強と健全で豊かな心の育成を図ることをねらいとして実施する。

2. 主催　(財) 日本ハンドボール協会

3. 共催　京都府京田辺市

4. 主管　京都府ハンドボール協会

5. 後援　文部省 (財) 日本体育協会日本スポーツ少年団　京都府　京都府教育委員会京都市教育委員会　八幡市　八幡市教育委員会 (財) 京都府体育協会　京田辺市教育委員会　京田辺市社会体育協会　近畿ハンドボール協会　八幡市ハンドボール協会 NHK京都 KBS京都　京都新聞社　洛南タイムス社　笹川スポーツ財団SSFスポーツエイド事業

6. 協賛

オムロン株式会社　株式会社モルテン　東急観光株式会社

7. 期間　平成12年7月28日 (金) ～7月30日 (日)

8. 会場　京田辺市田辺中央体育館、同志社大学体育館、京都府田辺高等学校体育館

9. 参加資格

(1) 小学生4年生から6年生までの男子及び女子とする。

(2) 各都道府県ハンドボール協会またはスポーツ少年団本部の推薦チームで、各都道府県男女1チームとする。ただし開催地については別に定める。

(3) 平成11年度スポーツ安全協会スポーツ安全保険に加入していること。

10. チーム編成

(1) 1チームにつき、役員5名以内、選手20名以内とする。役員とは、引率責任者 (団長)、監督、コーチ、マネージャーとする。

(2) 各チームは、必ず引率責任者によって引率され、大会期間中、選手の全ての行動に責任を負うものとする。

11. 競技及び方法

(1) 2000年度日本ハンドボール協会競技規則に準ずる。

(2) 競技場は36m × 20mとする。

(3) 使用球については、(財) 日本ハンドボール協会検定球 (小学生1号球モルテンボール) とする。

(4) 試合における松ヤニ・粘着スプレー・両面テープ等の使用は禁止する。

(5) 試合方法は、予選リーグ及び決勝トーナメント方式とする。(参加チーム数により変更する場合がある)

(6) 競技時間は、参加チーム数により後日決定し、各チームに連絡します。

12. 参加料　無料とする。

13. 参加上の注意

(1) 参加申込書には、各都道府県協会長の承認印を受けること。

(2) 選手の健康診断は必ず各都道府県協会の責任において全選手に実施すること。

(3) 参加選手は、健康保険証 (コピーでよい) を必ず持参すること。

14. 申し込み方法

(1) 提出書類

◇参加申込書 1部

◇宿泊申込書 1部

※申込書は男・女別用紙とし、各1部づつ作成すること。

(2) 申し込み期日

平成12年6月30日 (金) まで

(3) 申し込み先・問い合わせ

〒610－0331 京田辺市田辺丸山19 田辺中央体育館内

全国小学生ハンドボール大会事務局

TEL (0774) 62－1501 FAX (0774) 62－1534

15. 組み合わせ抽選

組み合わせ抽選は、主催者で行い、後日各チームに連絡します。

16. 表彰

男女各1位～4位まで表彰する。

男女優勝チームの監督を優秀監督として表彰する。

17. 大会日程

審判会議	7月28日 (金) 8：00～
監督・代表者会議	7月28日 (金) 8：45～
開会式	7月28日 (金) 9：30～
閉会式	7月30日 (日) 競技終了後、田辺中央体育館にて行う。

第2回全日本ビーチハンドボール選手権大会 開催要項

1. 主催　(財) 日本ハンドボール協会
2. 主管　(財) 日本ハンドボール協会ビーチハンドボール委員会
　　秋田県ハンドボール協会　本荘市
3. 後援　秋田放送テレビ　秋田テレビ　秋田朝日放送
　　秋田さきがけ新報社　さきがけスポーツ
　　本荘市観光協会　(株) スポーツイベント (以上予定)
4. 期日　平成12年7月29日 (土)、30日 (日) (晴雨に係わらず実施する)
5. 日程

7月29日 (土)	9：00～	代表者会議
		ルール研修及び審判講習会
	13：00～	予選リーグ
7月30日 (日)	10：00～	決勝リーグ

6. 場所　本荘マリーナ海水浴場
7. 競技種別　男子の部・女子の部
8. 競技規則
　平成12年度日本ハンドボール協会ビーチハンドボール競技規則による
9. 競技方法　予選リーグ・決勝リーグ
10. 参加資格
　全国9ブロックから各1チーム推薦された9チーム (ただし、推薦できないブロックの出場枠については、ビーチハンドボール運営委員会が承認したチームを当てる)。
　選手は16歳以上の者とし、未成年者にあっては保護者の承諾を得ることとする。
　平成12年度 (財) スポーツ安全協会傷害保険又は任意の各種障害保険に加入していること
11. 大会エントリー
　1チーム13名で、チーム役員3名、選手10名とする。
12. ゲームエントリー　チーム役員3名、選手8名とする。
13. 申し込み期日　別途参加申込書により、7月8日 (土) までに、参加料を添えて下記に申し込むこと。
14. 申込先　〒150－8050 東京都渋谷区神南1－1－1
　(財) 日本ハンドボール協会ビーチハンドボール委員会宛
　　注) 参加料を同封し現金書留で郵送のみ受け付ける
15. 宿泊料金　1人1泊2食 11、000円 (予定)
16. 参加料　1チーム 20,000円
17. 表彰　1位から3位まで表彰する。

第20回全国クラブハンドボール選手権大会 西地区大会　開催要項

1. 主催　(財) 日本ハンドボール協会
2. 後援
　三重県　三重県教育委員会
　東海ハンドボール協会　読売新聞社
3. 主管　三重県ハンドボール協会
4. 期日　平成12年7月22日 (土) ～7月23日 (日)
5. 会場
　四日市ドーム
　　(三重県四日市市羽津甲5169 TEL：0593－30－3131)
　　近鉄四日市駅・JR四日市駅より三重交通バス霞ケ浦行き四日市競輪場前
　　東名阪自動車道四日市東ICより富田山城線を東へ約7km
6. 競技規則　平成12年度日本ハンドボール規則による。
7. 競技方法
　予選リーグ・順位決定戦とする。(2日目交流試合可能)
8. 参加資格
　①平成12年度に日本ハンドボール協会に登録されたチーム。
　②各ブロック予選を突破したチーム。
　③1チームは役員4名、選手16名以内とする。
9. 日程

審判会議	22日(土) 12：00	
代表者会議・開会式	22日(土) 13：00	四日市ドーム会議室
競技開始	22日(土) 14：00	四日市ドーム競技場
閉会式	23日(日) 全試合終了後競技会場で実施	

10. その他
　①競技場の負傷事故は、主催者が応急手当てをする他は責任を負わない。
　②競技場はオムニコートなので、ポイントシューズが望ましい。
　③選手は保険証を持参すること。
　④練習会場は、大会当日午前9時から競技会場を開放する。

平成12年度第8回全日本マスターズ大会要項

1. 趣旨

本大会は、一定の年齢以上のハンドボーラーが一堂に会し、広く生涯スポーツとして楽しみ、親睦と友情を深める機会とすることが、わが国のハンドボールのさらなる発展と普及を願った所期の目的に合致すると考え、開催するものである。

2. 主催　全日本教職員ハンドボール連盟

3. 主管　愛媛県ハンドボール協会　松山市ハンドボール協会

4. 後援　愛媛県教育委員会（財）愛媛県体育協会　松山市教育委員会（財）松山市体育協会　愛媛新聞社　南海放送　テレビ愛媛　あいテレビ　愛媛朝日放送

5. 期日

平成12年7月28日(金)競技運営委員会及び開会式(午後7時より)
平成12年7月29日(土)～30日(日)（両日とも9時スローオフ）

6. 会場　愛媛県総合運動公園体育館（2面）
〒791－1136 松山市上野町乙46番地
TEL：089－963－3211 FAX：089－963－4104

7. 試合方式　予選リーグ及び順位決定戦
→ 参加チーム数により変更することがある

8. 試合時間 20分－10分－20分

9. 参加資格

男女とも年齢制限を設ける。男子は40歳以上とし、チーム編成上38歳以上の選手を2名まで含むことができる。女子は35歳以上とする（個人の参加については、11.その他の項を参照すること）。

10. 参加人数

①役員は、監督及び2名の競技役員とする。
②選手は1チーム20名までとする（役員は選手を兼ねることができる）。
③選手の背番号は、No.1～No.20の通し番号とする。
④各チームは、チームを代表する責任者として部長（顧問）また監督を付き添いとすること。

11. その他

①男女共に個人による申し込みも認める。個人申込者のチーム所属については、大会本部の調整によるものとするが、申込者の居住地によっては西日本・中日本・東日本の3ブロックに分けて編成するものとする。
②参加チームは2名の競技運営委員を申込書に必ず明記する。この2名は競技運営が円滑に行えるように協力する。

12. 備考

①競技場　愛媛県総合運動公園体育館　フロアに2面設営。
（サイドライン38m アウターゴールライン20m）
②試合球　男子、女子共にモルテン・ミカサ・アディダスの手縫いボールを使用する（試合球及び屋内用の練習球は大会事務局で用意する）。
③シューズ　屋外用と屋内用を必ず区別すること（厳守）。
④松ヤニ 松ヤニ・スプレーは禁止。両面テープを使用すること。
⑤ユニフォーム　濃淡2色を2着以上用意し、GKと同一色でないこと（大会事務局では、No.1～No.20のベスト3色を用意している）。
⑥救護　大会試合中の傷害については、近くの病院へ搬送する。必ず保険証を持参すること。

13. 傷害保険

本大会に参加するチームの全構成員は、下記の傷害保険に必ず加入しなければならない。但し、部長・監督・コーチは任意とする。申込用紙は傷害保険加入者欄に必要事項を記入し、保険料（人数×500円）を、チーム名にて銀行口座に参加料と共に振り込むこと。

①保険期間　大会前日から4日間（7月27日～7月30日）に限る。
②支払条件　本大会参加のため自宅を出発してから自宅に帰るまでに被った外来の傷害（交通事故も含む）。但し、保険期間中に限る。地震・噴火・津波による事故、飲酒運転、疾病は対象にならない。
③事故報告　事故が起きた場合、直ちに大会本部に連絡し所定の届出書類を提出すること。以降、保険会社が本人宛に直接連絡する。
④保険金額
死亡 1,228万円
後遺傷害保険金額
事故の日からその日を含めて180日以内に後遺傷害が生じたときは、傷害の程度により死亡保険金の3％～100％の範囲で支払われる。
入院日額 1日 6,350円（180日限度）
通院日額 1日 4,000円（ 90日限度）
⑤保険会社 JTB松山支店
担当　脇坂　勝　TEL：089－943－3321

がんばれ10万人会情報

サポート会員　新会員紹介

【岩　手】太田利彦
【茨　城】住谷　稔
【栃　木】高崎　弘、高崎真人、高崎尚之
【埼　玉】佐藤秀明
【千　葉】飯田明博
【東　京】塩川安賢
【神奈川】松岡正彦、亀ケ谷　修、三島克己
【山　梨】植野　保、中村文雄
【富　山】廣瀬昌人、川腰　保、南條　勉、桶家秀介、三輪薫代
【福　井】大島　勉、村上重治、
【静　岡】寺田嘉一、柴田龍司、大崎高志、野中麻梨弥、遠藤俊洋、市川　綾、佐野貴洋、太田雅紀、斎藤康平、平井良房
【愛　知】禰津行雄、甲斐千明、山下泰典、荒木達雄、浦川典彦
【三　重】山本光世、水谷博一、生川照也、伊藤亜衣美、山下佳苗、伊藤米吉・有美子、堀田広隆
【大　阪】吉田敏明、ホテルフライトン江坂、小川淳一、石垣翔伍、今井　浩、大西和雄、大木和廣、原　則義、山本智章、牧田秀雄、渡辺忠重、竹田信行、仲尾健二、花岡忠春、北村泰子、陶山茂生、瀧　永真子、河崎利香、上田　孝、青谷　茂、小池邦子、黒下修司、和田恵美世、加藤孝子、神崎清江、北岡貴弘、島袋朝享、平田　満、藤田裕子、南　嘉彦、東　哲朗、尾山加代子
【奈　良】松本慶三
【和歌山】楠山昌良、能木　進
【広　島】増原洋志、森川民子、高原裕子、宮迫雅己
【山　口】溝部弥三郎
【愛　媛】河本武夫
【福　岡】田中　守
【長　崎】今村豊嗣
【熊　本】緒方政行
【大　分】三浦城太、松本公一
【鹿児島】下之薗真由美、下之薗博文、野崎泰宏、安田三郎

サポート会員　加入状況

	都道府県名	合計			
1	北海道	9	25	滋　賀	4
2	青　森	1	26	京　都	10
3	岩　手	5	27	大　阪	89
4	宮　城	3	28	兵　庫	12
5	秋　田	21	29	奈　良	7
6	山　形	0	30	和歌山	4
7	福　島	1	31	鳥　取	0
8	茨　城	8	32	島　根	1
9	栃　木	10	33	岡　山	6
10	群　馬	4	34	広　島	256
11	埼　玉	10	35	山　口	5
12	千　葉	17	36	香　川	9
13	東　京	52	37	徳　島	2
14	神奈川	23	38	愛　媛	4
15	山　梨	16	39	高　知	0
16	長　野	3	40	福　岡	4
17	新　潟	0	41	佐　賀	2
18	富　山	8	42	長　崎	6
19	石　川	5	43	熊　本	4
20	福　井	15	44	大　分	17
21	静　岡	18	45	宮　崎	0
22	愛　知	22	46	鹿児島	7
23	三　重	18	47	沖　縄	3
24	岐　阜	45			766

平成11年度から
新会員登録制度
スタート！

がんばれ ハンドボール 10万人会



●HANDBALL FAMILY

	年会費	主な特典
グランド会員	10.000円	日本協会機関誌（年11回） 日本協会主催大会無料パス 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引
ファミリー会員	3.000円	日本協会主催大会無料 ペア券1枚 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引

■登録増によるメリット

- メジャースポーツとして認知
- 登録金の増収

- スポンサーがつく
- 全員参加意識の高揚

財源確保

各種事業への活用と充実
- ○小・中学校の普及
- ○ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
- ○ミニハンドボール競技の導入
- ○ジュニア層の重点強化
- ○各大会の補助金アップ
- ○国際大会の招致
- ○一貫指導体制の確立

団結しよう！
ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、OB、OGなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません)。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落しさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます)。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

財団法人　日本ハンドボール協会

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内
TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367
http://www.handball.or.jp/

平成12年度全日本大会審判一覧表

大会名	開催地	期日	審判員名
第41回 全日本 実業選手権 男子・女子	名古屋	6/29 ~7/2	◎喜井美雄　○板倉孝雄　○菅田信也 武智 誠治・松原 誠起(愛 媛)　小山 勉・佐路 清隆(京 都)　北中 弘規・山口 和博(石 川) 渡辺 貞彦・楓 健児(愛 知)　坪井 雅典・岩本 晃寿(愛 知)　浅野 幹也・神谷 真次(愛 知) 細沢 覚・清水 保雄(静 岡)　能波 羊二・井上 清光(滋 賀)
第51回 全国 高等学校 総合体育大会	大垣市 他	8/6 ~ 8/12	◎市瀬公敬　○細沢 覚 中地 健三・仲里 貢(沖 縄)　浅野 幹也・神谷 真次(愛 知)　大橋 幹正・亀山 耕司(北海道) 塩川 亮広・服部 博幸(長 野)　中館 豊・多田 和生(岩 手)　野平健二郎・相坂 賢将(埼 玉) 安達 和雄・長谷川 剛(茨 城)　大鐘 雄善・平松 裕(千 葉)　河合 千丈・木和田浩史(愛 知) 坪井 雅典・中野 正彦(愛 媛)　田中 基明・濱口 卓志(愛 知)　片山 聡・鈴木 教昭(静 岡) 若林 賢吾・大岩 広人(静 岡)　宇尾野 章・片山 拓(三 重)　高森 賢・近藤田都哉(岐 阜) 日比 丈司・池渕 智一(岐 阜)　野島 祥之・石原 秀和(岡 山)　加藤 剛基・高木 優明(香 川) 田中 靖浩・江口 典秀(佐 賀)　建岡 欣也・福島 亮一(熊 本)　吉田 正明・岡辺 清和(兵 庫) 伊藤 保二・尾崎 浩祥(大 阪)
第41回 全日本 教職員大会	松山市	7/25 ~ 7/28	◎島崎政治　○竹村久晴 清水 修・成岡 浩(愛 知)　長谷部次雄・宮崎 光一(高 知)　武智 誠治・松原 誠起(愛 媛) 白石 隆保・川田 哲也(愛 媛)　今井 茂宏・先田 寿志(愛 媛)
第5回 ジャパン オープン トーナメント	宮城県	8/10 ~ 8/13	◎斉藤 実　○小友正人　○池田加一 藤井 俊朗・大熨 嘉彦(岡 山)　小野寺明彦・松崎 雅芳(北海道)　山口 弘夫・岩上浩一郎(富 山) 横山 繁・丸井 誠(青 森)　渡部 努・高橋 一(秋 田)　安孫子 功・柏崎 博之(山 形) 斉藤 仁宏・田川 卓史(福 島)　佐藤 睦朗・大沢 由和(岩 手)　尾形 俊賢・佐藤 健(宮 城) 早坂 益輝・工藤 道一(宮 城)　高山 潤二・西山 健臣(宮 城)　江原 秀一・永春 文義(東 京) 八田 政久・菊島 裕次(山 形)　山下 勝俊・四元 俊一(栃 木)　中川 利彦・岡本 憲和(高 知)
第29回 全国中学校 体育大会	浦添市	8/22 ~ 8/25	◎溝口博一 三宅 秀明・中谷 幸生(岡 山)　岡村 尚明・梅本 司(山 口)　丸谷 譲二・奥田 政俊(奈 良) 浅井 隆志・家永 昌樹(大 阪)　新荘 佛男・遠藤 雅章(福 岡)　田中 靖浩・江口 典秀(佐 賀) 島村 浩信・亀井 一寿(大 分)　根路銘国斗・與那嶺 哲(沖 縄)　中地 健三・仲里 貢(沖 縄) 高良 政幸・儀間 稔(沖 縄)　杉山 孝広・渡辺 一晶(香 川)　松原 誠起・竹内 強(愛 媛)
第55回 国民体育大会	氷見市	10/14 ~ 10/19	◎斉藤 実　○中山光広　○光安美津夫 浜田 浩和・小笠原久朗(東 京)　仲田 稔・植村 彰(千 葉)　阿部羅大造・浜野 大介(石 川) 大石 克哉・桜打 佳浩(富 山)　山口 弘夫・岩上浩一郎(富 山)　佐藤 竜也・奥田 孝治(富 山) 田村 裕司・中村 昭裕(石 川)　小山 英人・塩川源太郎(長 野)　藤井 善彦・竹野 誠司(福 井) 大脇 和春・知野 昌央(新 潟)　木村 篤史・満井 寿彦(宮 城)　小林 一夫・土屋 雅男(埼 玉) 清水 保雄・内藤 岳(静 岡)　加藤 晃・田原 和雄(山 口)　馬場 保夫・吉田 正明(兵 庫) 浅井 隆志・岸本 光夫(大 阪)
第43回 全日本 学生選手権	広島市	11/22 ~ 11/26	◎佐野和夫　○狩野幸介　○古富 博　○奥川和永 家永 昌樹・福島 亮一(大 阪)　龍 弘美・貞島 早苗(佐 賀)　楓 健児・渡辺 貞彦(愛 知) 工藤 里花・外舘由美子(岩 手)　中島 昭博・谷藤 節雄(岩 手)　比留間 康・永春 文義(東 京) 阿部羅大造・浜野 大助(石 川)　浅野 幹也・池渕 智一(愛 知)　竹安 未央・金城 雄作(大 阪) 原井 進・角 直樹(山 口)　浜角 智之・山本 淳(島 根)
第52回 全日本 総合選手権	広島市	12/13 ~ 12/16	◎斉藤 実　○古富 博
第9回 JOC ジュニア オリンピック カップ	堺市	12/25 ~ 12/27	◎溝口博一　○北山 隆 梅田 淳夫・横山 和哉(和歌山)　松森三樹男・西園 友秀(兵 庫)　大西 清志・大蔵 太(兵 庫) 丸谷 譲二・奥田 政俊(奈 良)　秦 隆二・秦 伊織(奈 良)　小林 弘和・山内 徹好(滋 賀) 橋山登志一・早瀬 司(滋 賀)　寺内 啓之・金谷 将央(大 阪)　竹安 未央・金城 雄作(大 阪) 小山 勉・佐路 清隆(京 都)　川勝 裕義・佐藤 晃(京 都)
第24回 全国 高校選抜大会	氷見市	3/23 ~ 3/28	◎市瀬公敬　○細沢 覚 小林 一夫・土屋 雅男(埼 玉)　亀山 耕司・水谷 省一(北海道)　大石 克哉・桜打 佳浩(富 山) 田中 宏育・矢田 晃章(富 山)　田村 裕司・八十山 修(石 川)　北中 弘規・山口 和博(石 川) 鳥谷越 洋・清水健太郎(長 野)　半田 有完・柴田 俊之(福 井)　大脇 和春・小林 智隆(新 潟) 工藤 鉄男・長野 和樹(岩 手)　岩井 潤一・勅使河原誠(群 馬)　浅野 明彦・荻原 俊夫(神奈川) 久保田昌俊・本地 照行(愛 知)　丸山 竜司・山谷 雅人(三 重)　米田 健・高野 修(広 島) 山本 耕一・野本 孝(愛 媛)　坂本 詔一・鶴田祐一郎(熊 本)　小山 勉・佐路 清隆(京 都)

協会だより

平成12年５月度拡大常務理事会

［日　時］平成12年5月19日（土）
17時～19時

［出席者］
市原専務理事、常務理事８名、理事１名、参事２名、監事２名、事務局１名

【審議事項】

1. 平成11年度決算について
詳細意見について、６月常務理事会で諮る事とした。

2. シドニー五輪決算について
収入、支出、余剰金について承認。

3. 平成12年度参事推薦について
競技運営参事を承認。

4. アテネ対策特別委員会組織について
アテネ強化特別委員会を組織し、会長、副会長、アドバイザーを承認。

5. 小学生登録促進について
中間報告がなされた。

6. TV放映決定について
全日本総合と日本リーグプレーオフの放映順位について、広報部で検討することとした。

7. ハンドボールフォーラムについて
総務、企画で打ち合わせることとした。

8. 社会人連盟設立について
各連盟より代表を出して検討することとした。

9. 東アジア競技大会について
2001年5月20日から26日まで開催、競技規則について報告。

10. 国体夏季大会移行について
国体の夏季大会移行について、メリット、デメリットを列記して各都道府県理事長にアンケートを依頼し、第１回全国理事会で審議する。

11. NTS経過及び指導教本及びVTR販売について
参加料として指導教本とVTRを一万円で販売することで、事前に見積もり、内容を示した資料を作成し、無駄をなくす。

12. 協賛企業状況について
協賛一覧表を作り検討する。

13. 外国人選手・スタッフとの意見交換会について
日本リーグに所属する外国人選手・スタッフにアンケート調査をした後、意見交換会を実施する。

14. 2001年ブラジルビーチハンドボール世界大会選手選考と役員派遣について
強化委員会の中に担当を決め、実連へ協力を依頼し、協議する。

15. ユニフォーム広告について
トレーニングウェアを含め、広告料を了承した。

【報告事項】

1. 平成11年度事業報告について、資料により執行事業を確認。詳細意見のある場合６月常務理事会で諮ることとした。

2. JHL25周年記念行事、ジャパンカップヒロシマ国際大会について、準備状況報告。

3. TV解説者及びハンドボール経験有名人リストについて、広い範囲から人選する。

4. アジアビーチハンドボール選手権について、開催中止が決定。世界大会には日本がアジア代表で出場する。ワールドゲームズ秋田大会にはイランがアジア代表で参加する。

5. ワールドゲームズ秋田大会進捗状況について、本荘市開催を確認した。

6. マッチバイザーの任務とガイドラインについて説明資料配布。

7. アテネプラン実行計画進捗状況について報告。

8. 各全日本候補選手、スタッフ報告及び強化計画について了承。

9. JOC専任コーチ、ジュニアコーチ内定の報告。

10. 10万人会について、海外移籍選手について、日本リーグについて報告。

全日本女子アンダー23
女子世界学生選手権大会参加選手団名簿

役職	氏名	備考
団長	久保義雄	全日本学生ハンドボール連盟副会長
副団長	樫塚正一	全日本学生ハンドボール連盟理事・日本協会強化委員会委員
監督	水上一	日本協会強化委員会委員・筑波大学女子監督
コーチ	笹倉清則	全日本学生ハンドボール連盟理事・日本女子体育大学監督
コーチ	栗山雅倫	U－23コーチ・イズミ(株)コーチ
コーチ	平岡秀雄	東海大学女子監督
ドクター	天門永春	横浜市立大学医学部付属市民総合センター・日本協会医科学委員
トレーナー	酒井薫	おかもと整形外科クリニック・日本協会医科学委員
レフリー	仲田稔	国際審判員・日本協会審判委員会
レフリー	植村彰	国際審判員・日本協会審判委員会
渉外・総務	坂本ますみ	全日本学連国際交流委員会・(株)エモックエンタープライズ

プレイヤー	氏名	所属・学年	出身校	身長＝cm	体重＝kg
GK 1	勝田祥子	武庫川女子大学 4年	熊本国府高等学校	176	67
12	安達多華美	筑波大学 3年	名古屋短大付属高	166	62
16	田中麻美	北國銀行	(洛北高校＝大阪体育大学卒業)	172	64
CP 2	山田永子	筑波大学 4年	名古屋短大付属高	160	59
3	金城晶子	武庫川女子大学 4年	那覇西高等学校	173	65
4	中村尚美	武庫川女子大学 4年	福井商業高等学校	165	62
5	柴田真由美	東京女子体育大学 4年	昭和学院高等学校	169	63
6	村上麻美	北國銀行	(福井商業高校＝筑波大学卒業)	167	65
7	徳永さつき	日本女子体育大学 3年	那覇西高等学校	157	53
8	早船愛子	筑波大学 3年	氷見高等学校	165	59
9	橋本寛子	東京女子体育大学 3年	埼玉栄高等学校	163	56
10	北井祥子	日本女子体育大学 3年	山梨高等学校	166	60
11	宮城友枝	茨城大学 3年	昭和学院高等学校	165	62
13	森本美奈子	筑波大学 2年	宣真高校（大阪）	170	68
14	上町史織	国士館大学 2年	盛岡第二高等学校	165	56
15	太田智子	筑波大学 1年	福井商業高等学校	170	63
17	小野澤香里	国士館大学 3年	文大杉並高等学校	169	59

●7月の行事予定

〈大会〉

★第20回全国クラブ選手権大会・西
7月22日～23日／三重・四日市

★第43回全日本教職員大会
7月25日～28日／愛媛県

★第6回ヒロシマ国際大会・2000年ジャパンカップ
7月27日～30日／広島県

★第19回全国クラブ選手権大会・東
7月28日～30日／福島県・本宮町

★第13回全国小学生大会
7月28日～30日／京都府・田辺市

★第8回全日本マスターズ大会
7月29日～30日／愛媛県

★第2回ビーチハンドボール選手権大会
7月29日～30日／秋田県

★第6回女子ジュニアアジア選手権
7月25日～31日／バングラディシュ

〈会議〉

☆常務理事会
7月8日(土)／東京

HAND BALL CONTENTS JUL

柔らかな感触で、最適なバウンド!

新発売

new



PKCH3-AD DX
5,500円

new



PKCH2-AD DX
5,400円

new



PKCH1-ADJ
3,600円



手縫い・国際公認球





PKCH3-AD
4,600円



PKCH2-AD
4,500円





PKCH3-ADR
2,800円



PKCH2-ADR
2,700円

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四〇九号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十二年六月二十六日印刷 平成十二年七月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 市原則之

価格は登録金に含む